

講義科目名称：英語A（子ども学科クラス）

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
向山 守			

テーマ	英語に慣れる
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 You've Got a Friend (前) リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第3回 You've Got a Friend (後) 歌詞の読解・文化的背景・ 英語でディスカッション</p> <p>第4回 I Will (前) リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第5回 I Will (後) 歌詞の読解・文化的背景・英語でディスカッション</p> <p>第6回 Spread Your Wings (前) リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第7回 Spread Your Wings (後) 歌詞の読解・文化的背景・英語でディスカッション</p> <p>第8回 Blowin' in the Wind (前) リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第9回 Blowin' in the Wind (後) 歌詞の読解・文化的背景・ 英語でディスカッション</p> <p>第10回 Tomorrow (前) リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第11回 Tomorrow (後) 歌詞の読解・文化的背景・英語でディスカッション</p> <p>第12回 Nobody's Home (前) リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第13回 Nobody's Home (後) 歌詞の読解・文化的背景・英語でディスカッション</p> <p>第14回 Girls Just Want To Have Fun リスニング・ディクテーション・発音練習</p> <p>第15回 Girls Just Want To Have Fun 歌詞の読解・文化的背景・ 英語でディスカッション</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	英語に慣れ親しむことを第一目標に据え、英語の聴解能力の開発に重点を置く。英語の歌を題材に「聞く」「読む」「話す」「書く」と多面的に技能を伸ばす練習をする。歌を聴き歌うことで、英語の音やリズムに慣れ、音から英語に親しむ。また、歌詞や歌に関連した文書を読み、訳すことで、歌のより深い意味合いをくみ取る練習をする。
テキスト	初回に提示します。
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法	出席＋定期試験（出席が足りていることが前提で、定期試験（100％）で評価）
質問・相談の受付方法	研究室棟301向山研究室まで。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	気楽に英語を楽しみましょう！
準備学習について	わからない単語は調べておいてください。

講義科目名称：英語B（子ども学科クラス）

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
向山 守			

テーマ	英語をよみ、適切な日本語にできることを目標とする。また、戯曲を扱うので、登場人物の心の動き、人間関係など機微を繊細に捉える態度を涵養する。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 Hamlet 1幕（前半）発表・読解・解説</p> <p>第3回 Hamlet 1幕（後半）発表・読解・解説・英語でディスカッション</p> <p>第4回 Hamlet 2幕（前半）発表・読解・解説</p> <p>第5回 Hamlet 2幕（後半）発表・読解・解説</p> <p>第6回 Hamlet 2幕（後半）発表・読解・解説・英語でディスカッション</p> <p>第7回 Hamlet 3幕（前半）発表・読解・解説</p> <p>第8回 Hamlet 3幕（後半）発表・読解・解説</p> <p>第9回 Hamlet 3幕（後半）発表・読解・解説・英語でディスカッション</p> <p>第10回 Hamlet 4幕（前半）発表・読解・解説</p> <p>第11回 Hamlet 4幕（後半）発表・読解・解説</p> <p>第12回 Hamlet 4幕（後半）発表・読解・解説・英語でディスカッション</p> <p>第13回 Hamlet 5幕（前半）発表・読解・解説</p> <p>第14回 Hamlet 5幕（後半）発表・読解・解説</p> <p>第15回 Hamlet 5幕（後半）発表・読解・解説・英語でディスカッション</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	毎回、ある分量の英語を予習し、その成果をクラスの中で発表する。
テキスト	初回に提示します。
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法	定期試験（100％）で評価
質問・相談の受付方法	研究室棟301向山研究室まで。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	なやめる王子の心理をいっしょにさぐっていきましょう。
準備学習について	指定された予習範囲の英訳をしっかりとってきてください。

講義科目名称：英語C

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	2	選択
担当教員			
角谷 裕子			

テーマ	基礎的な英文法、文の構成、語彙を学び、ある程度まとまった考えを英語で表現することを目標とします。
授業計画	<p>第1回 インTRODakション・journal writing (日記) の説明</p> <p>第2回 短文 第1文型、第2文型 作文・会話アクティビティ</p> <p>第3回 短文 第3文型、第4文型 作文・会話アクティビティ</p> <p>第4回 短文 第5文型 作文・会話アクティビティ</p> <p>第5回 修飾語の置き方：形容詞的修飾 作文・会話アクティビティ</p> <p>第6回 修飾語の置き方：副詞的修飾 作文・会話アクティビティ</p> <p>第7回 文のつなぎ方 重文：等位接続詞 and, but, or, so, for , yet 作文・会話アクティビティ</p> <p>第8回 文のつなぎ方 重文：等位接続詞 both…and, either…or, not only…but also 作文・会話アクティビティ</p> <p>第9回 文のつなぎ方 複文：名詞節 (that 節、WH節) 作文・会話アクティビティ</p> <p>第10回 文のつなぎ方 複文：形容詞節 (関係代名詞) 作文・会話アクティビティ</p> <p>第11回 文のつなぎ方 複文：形容詞節 (関係副詞) 作文・会話アクティビティ</p> <p>第12回 文のつなぎ方 複文：副詞節 (時、様態、条件) 作文・会話アクティビティ</p> <p>第13回 文のつなぎ方 複文：副詞節 (原因、結果、目的、比較) 作文・会話アクティビティ</p> <p>第14回 文書の構成：パラグラフ構成、手紙文の書き方・作成</p> <p>第15回 文書の構成：手紙文のメールでの通信</p> <p>試験</p>
授業の概要と目的	5文型からなる短文の作成から複雑な文の作り方を、練習問題を通し段階的に学びます。さらに会話、日記やメール、手紙などを通し自分を表現する文作成に取り組み、学期を通し日記を書き提出、メールで手紙を送るなど英語でのコミュニケーションを図ります。
テキスト	コピーを用意する予定でいます。テキストを使用する場合は、初回の授業で提示し、人数を確認した上で注文します。
参考文献	必要に応じ、最初の授業で紹介します。
成績評価の基準・方法	定期試験(70%)に、課題・授業参加態度の平常点(30%)を含み評価します。
質問・相談の受付方法	授業後、あるいは指定した時間に講師控室で対応します。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	積極的な授業参加と学習姿勢を期待します。授業には必ず辞書(和英・英和辞典)を持参するようにして下さい。
準備学習について	授業で次回の課題・予習内容を指示します。 必ず復習・予習を行い、次回の授業に臨んでください。

講義科目名称：英語D

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
角谷 裕子			

テーマ	教養英語の集大成として、英語の文章を味わい、声を出して読むことで自分の解釈を表現します。音読して英語を味わうことで、英語をより深く理解することを目標とします。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 発音練習（母音）・わらべ歌</p> <p>第3回 発音練習（t / d）・英詩紹介</p> <p>第4回 英詩（選択）・発音練習（h / f）</p> <p>第5回 英詩（読解）・発音練習（r / l）</p> <p>第6回 英詩（朗読発表）・児童文学紹介</p> <p>第7回 絵本・児童文学（選択）・発音練習（s / θ）</p> <p>第8回 絵本・児童文学（読解）・発音練習（b / v）</p> <p>第9回 絵本・児童文学（朗読発表）・小説紹介</p> <p>第10回 小説・フィクシヨN（選択）・発音練習（z / δ）</p> <p>第11回 小説・フィクシヨN（読解）・発音練習 linking 1</p> <p>第12回 小説・フィクシヨN（朗読発表）・演説紹介</p> <p>第13回 スピーチ（選択）・発音練習 linking 2</p> <p>第14回 スピーチ（読解）・発音練習 linking 3</p> <p>第15回 スピーチ（朗読発表）・まとめ</p> <p>（受講者数により、変更があります。）</p>
授業の概要と目的	授業では、発音練習と課題として与えられた、また自分の選んだ文献を読解し、自分の理解や解釈に基づいて、朗読発表します。発表前に、文章の解釈をし、感想文を提出してもらいます。
テキスト	必要教材はコピーを渡します。授業の中で提示した自分の好みの文献を選択します。
参考文献	必要に応じ、授業で適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	課題提出・発表・授業参加態度の平常点（40：40：20）で評価します。
質問・相談の受付方法	授業後、あるいは指定した時間に講師控室で対応します。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	積極的な授業参加と学習姿勢を期待します。授業には必ず辞書（英和辞典）を持参するようにして下さい。
準備学習について	授業内で朗読発表に向けての課題・予習内容を指示します。必ず準備をして授業に臨んでください。

講義科目名称：英語コミュニケーションA

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
キャサリン・アン・田村			

テーマ	Speaking and listening skills practice
授業計画	<p>This proposed order may change according to need.</p> <p>第1～2回 Meeting and introducing people</p> <p>第3～4回 Numbers and time</p> <p>第5回 Role play for classes 1～4</p> <p>第6～8回 Hometowns and locations</p> <p>第9回 Roleplay for classes 6～8</p> <p>第10～12回 Foods, restaurants, cooking advice</p> <p>第13～14回 Daily activities, frequency</p> <p>第15回 Role play for classes 10～14</p>
授業の概要と目的	To introduce the students to natural English by doing role play activities.
テキスト	<p>テキスト名：Getting Into English</p> <p>ISBN：978-4-523-17650</p> <p>出版社：Nan'Un-Do</p> <p>著者名：Cronin/Bray</p> <p>価格（税抜）：1,800円</p>
参考文献	—
成績評価の基準・方法	Students will be graded on their attitude and participation for each class (about 40%) and role play activities (about 60%)
質問・相談の受付方法	—
履修条件	—
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	Students should bring a dictionary and word cards to class.
準備学習について	Students should study for each lesson before and review what they learned after each lesson.

講義科目名称：英語コミュニケーションB

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
キャサリン・アン・田村			

テーマ	Speaking and listening skills practice
授業計画	<p>This proposed order may change according to need.</p> <p>第1～3回 Review, talking about music</p> <p>第4～5回 Talking about family</p> <p>第6～8回 Weekends, activities, and movies</p> <p>第9～10回 Seasons, health</p> <p>第11～12回 Christmas culture classes and celebration</p> <p>第13～14回 Cell phones, computers and other devices</p> <p>第15回 Review and final check</p>
授業の概要と目的	To introduce the students to natural English by doing role play activities. In addition, they will enjoy learning the real meaning of a world-wide holiday, Christmas, with a special celebration!
テキスト	<p>テキスト名：Getting Into English</p> <p>ISBN：978-4-523-17650</p> <p>出版社：Nan'Un-Do</p> <p>著者名：Cronin/Bray</p> <p>価格（税抜）：1,800円</p>
参考文献	—
成績評価の基準・方法	Students will be graded on their attitude and participation for each class (about 40%) and role play activities (about 60%)
質問・相談の受付方法	—
履修条件	—
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<p>Students should bring a dictionary and word cards to class.</p> <p>Students should also bring a New Testament Bible to class (they can get a free copy from the school library)</p>
準備学習について	Students should study for each lesson before and review what they learned after each lesson.

講義科目名称：英語コミュニケーションC

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	2	選択
担当教員			
キャサリン・アン・田村			

テーマ	Communications skills practice (listening, speaking, actions, and so on)
授業計画	<p>This proposed order of classes may change according to need.</p> <p>第1～3回 Introductions and meeting people</p> <p>第4～5回 Daily life and role play check</p> <p>第6～8回 Friends、family, describing people, role check</p> <p>第9～11回 Making plans and role play check</p> <p>第12～13回 Talking about weekends</p> <p>第14～15回 Review and role play check</p>
授業の概要と目的	To have the students use many activities and role play exercises to improve their English skills.
テキスト	<p>テキスト名：Time to Communicate</p> <p>ISBN：978-4-523-17791-3</p> <p>出版社：Nan'Un-Do</p> <p>著者名：Bray</p> <p>価格（税抜）：1,900円</p>
参考文献	—
成績評価の基準・方法	Students are graded on attendance and participation for each class. Also there will be tests, oral and role play, as each unit is finished.
質問・相談の受付方法	—
履修条件	—
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	Students will need to bring a Japanese/English dictionary to class (or Eng./Jap.). Students should also bring word cards to class
準備学習について	Students should study the lesson before the class and review it after each class.

講義科目名称：英語コミュニケーションD

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
キャサリン・アン・田村			

テーマ	Communications skills practice (listening, speaking, actions, and so on)
授業計画	<p>This proposed order of classes may change according to need.</p> <p>第1～2回 Review and talk about summer vacation</p> <p>第3～5回 Giving instructions, food</p> <p>第6～8回 Hometowns, comparing places</p> <p>第9～10回 Future plans</p> <p>第11～12回 Christmas classes</p> <p>第13～15回 Asking opinions and role play check</p>
授業の概要と目的	To have the students use many activities and role play exercises to improve their English skills. Also the students will learn to explain some Japanese culture in English. Students will also learn about the real meaning of Christmas and enjoy a Christmas celebration!
テキスト	<p>テキスト名：English Listening and Speaking Patterns</p> <p>ISBN：978-4-523-17747-0 C0082</p> <p>出版社：Nan'Un-Do</p> <p>著者名：Bennet</p> <p>価格（税抜）：2,000円</p>
参考文献	—
成績評価の基準・方法	Students are graded on attendance and participation for each class. Also there will be tests, oral and role play, as each unit is finished.
質問・相談の受付方法	—
履修条件	—
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	Students will need to bring word cards and a Japanese/English dictionary to class (or Eng./Jap.). Students should also bring the New Testament Bible (Eng/Jap.) to each class. (The school library has free copies each student can have)
準備学習について	Students should study the lesson before the class and review it after each class.

講義科目名称：中国語A

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
周 佩芳			

テーマ	聞く力、話す力、書く力の総合的レベルアップを目指す。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、授業紹介、発音練習</p> <p>第2回 発音と綴りの基本的な法則</p> <p>第3回 第1課 基本文型</p> <p>第4回 第2課 指示代詞 “的” 使い方</p> <p>第5回 第3課 人称代詞形容詞述語文</p> <p>第6回 形容詞 副詞</p> <p>第7回 第4課 所有を表す</p> <p>第8回 “和”、“都” 年月日の言い方 動詞の現在形</p> <p>第9回 第5課 名前の訪ね方 疑問文(1)</p> <p>第10回 在(1) 量詞 “多少” と “几”</p> <p>第11回 第6課 連動文 場所代詞</p> <p>第12回 第7課 疑問文(2) 方位詞 主述述語文</p> <p>第13回 在(2) 前置詞 二重目的語</p> <p>第14回 第8課 時間の表し方 結果補語</p> <p>第15回 復習 まとめ</p>
授業の概要と目的	<p>この授業では、目で読んでいくのだけではなく、中国語を音として理解する訓練が中心である。日本人が苦勞しがちな「発音」をネイティブ・スピーカーの模範朗読によりわかりやすく指導しながら、聞く力を強化、話す力を開発、また、朗読力、書く力を含めた総合的レベルアップを目指す。</p> <p>「中国語の口と耳」を鍛えるため、徹底して話しことば重視し、くどいくらいに口頭練習を繰り返すこと。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『話し放題中国語』</p> <p>ISBN：978-4-7647-0674-3</p> <p>出版社：金星堂</p> <p>著者名：盧 華岩</p> <p>価格（税抜）：2,650円</p> <p>※後期「中国語B」でも引き続き使用する。</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。辞書を購入する必要はないが、手に入りたい人の相談には随時応じる。
成績評価の基準・方法	評価は、平常点（出席率・学習態度）＋期末テストによるものですが、良い評価を獲得できるかどうかは受講生自身の努力次第です。
質問・相談の受付方法	講義終了後に随時受け付けます。
履修条件	特に設けない（中国語既習者でこの「中国語A」を跳ばして「中国語B」を履修することを希望する者は、担当教員に事前に相談すること）。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】
メッセージ	ちりも積もれば山となる。毎日一言中国語を話してみましよう。
準備学習について	毎回授業の始めに中国語で一言いますので準備してきてください。

講義科目名称：中国語B

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
周 佩芳			

テーマ	中国語の基本的な仕組みを把握するとともに、短文だけではなく長文の理解もできることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 前期内容復習</p> <p>第2回 聞き取り練習</p> <p>第3回 第9課 能願動詞</p> <p>第4回 因果関係を表し方</p> <p>第5回 第10課 動詞の過去形</p> <p>第6回 副詞 “又” と “再”</p> <p>第7回 第11課 仮定を表す</p> <p>第8回 選択疑問文 過去の経験を表す</p> <p>第9回 量的に完了できることを表し方</p> <p>第10回 第12課 数字に関する表現</p> <p>第11回 助動詞 選択疑問文 程度補語</p> <p>第12回 始点から終点までを表す “从---到”</p> <p>第13回 数量補語 程度による形容詞の表し方</p> <p>第14回 動作が進行中であることを表し方 比較表現</p> <p>第15回 復習 まとめ</p> <p>期末試験</p>
授業の概要と目的	<p>前期に学んだ文法事項を復習しながら、語彙や語法を増やしつつ、表現の幅を広げる。この授業では、目で読んでいくのだけではなく、中国語を音として理解する訓練が中心である。また、中国語の基本的な仕組みを把握するとともに短文の積み重ねから長文の進め方へと発展させていきたい。</p> <p>前期の引き続いて徹底して話しことば重視し、くどいくらいに口頭練習を繰り返すこと。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『話し放題中国語』 ※前期と同様</p> <p>ISBN：978-4-7647-0674-3</p> <p>出版社：金星堂</p> <p>著者名：盧 華岩</p> <p>価格（税抜）：2,650円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。辞書を購入する必要はないが、手に入れたい人の相談には随時応じる。
成績評価の基準・方法	評価は、平常点（出席率・学習態度）＋期末テストによるものですが、良い評価を獲得できるかどうかは受講生自身の努力次第です。
質問・相談の受付方法	講義終了後に随時受け付けます。
履修条件	特に設けない（中国語既習者でこの「中国語A」を跳ばして「中国語B」を履修することを希望する者は、担当教員に事前に相談すること）。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	ちりも積もれば山となる。毎日一言中国語を話してみましよう。
準備学習について	毎回授業の始めに中国語で一言いいますので準備してきてください。

講義科目名称：現代日本の経済

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
山下 隆之			

テーマ	現代の日本経済を、経済理論の視点からみる。身近な地域経済（静岡県や焼津市）の変化を題材として、産業構造の変化、国民所得の動き、公的部門の役割への理解を深める。
授業計画	<p>第1回 経済学の誕生 幸せを考える</p> <p>第2回 静岡県経済の歴史 1950年代から現在まで</p> <p>第3回 経済基盤モデル（1）基盤産業と非基盤産業</p> <p>第4回 経済基盤モデル（2）地域経済と循環</p> <p>第5回 地域マクロ経済モデル（1）県内総生産の決定</p> <p>第6回 地域マクロ経済モデル（2）乗数効果</p> <p>第7回 地域マクロ経済モデル（3）財政政策、アベノミクス</p> <p>第8回 静岡県経済の研究（1）特化係数からみた静岡県</p> <p>第9回 静岡県経済の研究（2）シフト・シェア分析からみた静岡県</p> <p>第10回 静岡県経済の研究（3）静岡県・焼津市の将来像</p> <p>第11回 地域経済成長の理論（1）新古典派経済成長モデル</p> <p>第12回 地域経済成長の理論（2）貯蓄、投資、人口、技術進歩</p> <p>第13回 市場機構の仕組み 均衡価格の決定</p> <p>第14回 需給の変化 価格の季節変動、豊作貧乏</p> <p>第15回 様々な市場 労働市場と人口移動</p>
授業の概要と目的	<p>（概要）日本経済や静岡経済が抱えている経済問題の原因を探ります。経験的事実から語るのではなく、それらが生じる論理（理屈）から考えます。</p> <p>（目的）同じ経済現象を論じるときでも、経済理論を知っている人と、そうでない人とでは、理解の仕方が大きく違います。受講生の皆さんに、経済現象や社会現象を、そのメカニズムから正しく読み解くための力を養ってもらうことを目的としています。</p>
テキスト	<p>テキスト名：地域経済分析ハンドブック</p> <p>出版社：晃洋書房（2016）</p> <p>著者名：山下隆之</p>
参考文献	講義中、必要に応じて紹介します。
成績評価の基準・方法	学期末の筆記試験にて評価します。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控え室（研究室棟1階）で受け付けます。
履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>
メッセージ	例年、開講時期の経済問題を題材としながら授業を進めますので、経済関係のニュースに注意を払うと効果的です。また、経済学は人間行動の学問でもあるため、日常生活を冷静に観察することがニュースを見るのと同じ位に重要です。
準備学習について	予習…テキストを読むこと。復習…ノートを整理すること。

講義科目名称：日本国憲法

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
国京 則幸			

テーマ	日本国憲法は、施行から既に60年余りが経過し、過去に様々な議論に晒さながらも戦後日本の最高法規として基本的な方針を示してきた。今般、改正論議が囁かれる中、その存在意義が問われている。本講義においては、日本国憲法の基本原理を論じつつ主要な学説及び判例を紹介し、憲法に対する理解を深めてもらう。
授業計画	<p>第1回 憲法の意味 憲法とは何か</p> <p>第2回 立憲主義の成立及び日本憲法史</p> <p>第3回 日本国憲法の基本原理</p> <p>第4回 象徴天皇制と国民主権主義</p> <p>第5回 平和主義</p> <p>第6回 基本的人権（1）人権総論、包括的人権、法の下での平等</p> <p>第7回 基本的人権（2）自由権1 表現の自由、思想・良心の自由、信教の自由</p> <p>第8回 基本的人権（3）自由権2 精神的自由、人身の自由、経済的自由</p> <p>第9回 基本的人権（4）社会権、参政権、新しい人権、義務規定</p> <p>第10回 国会・選挙・政党 国会の組織と機能について</p> <p>第11回 内閣、議院内閣制度について</p> <p>第12回 司法 司法の独立の意味 裁判所の組織と機能について</p> <p>第13回 地方自治 地方分権制度について</p> <p>第14回 憲法改正 日本国憲法改正の手続き 国民投票制度</p> <p>第15回 最高法規 最高法規の意味 憲法尊重遵守義務について</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	この講義は、日本国憲法の全体像を理解することを目的とする。具体的には、立憲主義、日本国憲法史、国民主権、平和主義、基本的人権に関する基本原理、人権の制約、包括的基本権、平等、表現の自由、思想・良心の自由、信教の自由、社会権、教育、人身の自由、経済的自由、参政権、家族、国会、内閣、裁判所、地方自治の取り扱い、憲法総論、人権、統治機構を一通り学習させる。
テキスト	<p>テキスト名：『憲法入門 5訂』</p> <p>ISBN：9784326451029 出版社：勁草書房</p> <p>著者：樋口陽一 価格：1,944円（本体1,800円＋税）</p>
参考文献	初宿正典他編著『目で見る 憲法 第4版』有斐閣
成績評価の基準・方法	<p>成績評価基準：①基本的な事実（授業の内容）を正しく理解できているか、</p> <p>②それに基づいて自ら考えることができているのか、の総合的評価</p> <p>成績評価方法：期末試験（60%）＋小テスト（40%）</p>
質問・相談の受付方法	授業の前後、またはメールにて応じる。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>
メッセージ	ニュースなどを手掛かりに、私たちの日常の出来事に関心を持って講義に臨んでほしい。
準備学習について	受講に際しては、教科書の該当する部分(1回わずか数ページ!)を一読しておくこと。

講義科目名称：日本史

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
小田部 雄次			

テーマ	私たちの日常の食べものなどはどう伝わってきたか
授業計画	プリントを解きながら、私たちの身近な食生活や日常なにげなくふれている「モノ」などの歴史について学びます。15回の内容は以下の計画です。桜と稲作、塩の道、鮎鯖街道、香料の道、南蛮菓子と砂糖、カツオ節の北上、逆輸入されたアジサイ、鰯街道、ピラフとイネ、箸と匙、納豆伝来、藤原三代と黄金の道、イクラの南下、シルクロードと楽器、花火の歴史などをテーマにして、それらと関連する周辺知識を学んでいきます。
授業の概要と目的	私たちにとって食べものは欠かせないものです。人間の歴史はある意味、食べることとの関わりで発展してきたともいえるでしょう。本講義では、そうした人間の歩みを食べものとの関わりの中で考えて見ようと思います。その場合、日本の歴史のみならず、世界の歴史も意識し、長くて奥深い人類の歩みが、現在の私たちの食生活にどのように反映されているかを考えてみたいと思います。とくに私たちの身近な食べものが、どのようなルートでどこにどのように伝わったのか、考えてみたいと思います（食べもの以外も少し加えます）。
テキスト	毎回、プリントを用意するので、特に必要ありません。
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	毎回、復習プリントと、まとめプリントをします。満点はそれぞれ2点と3点になりますので、28点と45点で合計73点になります。残りの27点は無欠席点や平常点として適宜加算します。
質問・相談の受付方法	講義中でも、講義後でも自由に質問や相談をしてください。ただし、講義を必要以上に長く中断させるような場合であれば、講義後をお願いします。
履修条件	食べものやその周辺の「モノ」などの歴史に興味や関心を持っていること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	人数が多い場合は座席指定にしますので、ご承知おきください。
準備学習について	毎時間のはじめに、前回の復習プリントをしますので、事前に整理しておいてください。

講義科目名称：外国史

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
吉田 滋一			

テーマ	現代中国を理解するための東アジア現代史
授業計画	<p>第1回 現代中国の特徴（1）世界第2位のGDP、21世紀はアジアの時代</p> <p>第2回 同上（2）現代中国の直面する内外の課題</p> <p>第3回 ウェスタン・インパクトへの対応における徳川幕府と清朝と李朝（1）</p> <p>第4回 同上（2）</p> <p>第5回 日清戦争、19世紀末の日本と中国の運命の分岐と中国人の屈辱</p> <p>第6回 20世紀前半の帝国主義国日本と「半植民地半封建主義国」中国と植民地朝鮮</p> <p>第7回 日中戦争における蒋介石と毛沢東</p> <p>第8回 アジアにおける第二次世界大戦の終結、サンフランシスコ講和条約と台湾・中国</p> <p>第9回 東西冷戦下の東アジア、日本の復興と毛沢東の社会主義</p> <p>第10回 田中角栄と周恩来、日中間の戦後処理、国交回復と残された課題</p> <p>第11回 東アジアNIESと鄧小平の改革・開放、社会主義から国家資本主義へ</p> <p>第12回 天安門事件と江沢民の愛国主義教育</p> <p>第13回 胡錦濤の和諧政策と格差の拡大</p> <p>第14回 東アジアにおける日中二大国の共存と対立する諸問題</p> <p>第15回 東アジアの歴史から何を学ぶか</p>
授業の概要と目的	中国の驚異的な経済的発展と脅威的な大国的発展とがなぜ引き起こされ、それがどのような特徴をもっているのかを考察するために、本講義では中国社会独自の特質に由来する歴史的な理由と、20世紀以降の世界史とりわけ日中両国関係を中心とする東アジア現代史の特質という二つの視点から歴史的に概論する。
テキスト	指定しない（授業時に資料配布）
参考文献	『シリーズ中国近現代史』①～⑤ 岩波新書、毛里和子著『日中関係』岩波新書
成績評価の基準・方法	出席態度、適宜行う小レポート、試験時の大レポート
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室又は講師控え室で。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	特になし
準備学習について	当日配布した資料を全部読んで復習しておいてください。

講義科目名称：比較文化論

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
吉田 浩一			

テーマ	日中文化の比較における時間的契機と社会的契機
授業計画	<p>第1回 パンダ外交史から見る中国と日本（1）パンダの「発見」、パンダは可愛い？</p> <p>第2回 同上（2）パンダは誰のものか？</p> <p>第3回 明治維新と日本人の自己発見（1）渋沢栄一と市場倫理としての論語</p> <p>第4回 同上（2）二宮尊徳と勤労原理としての論語</p> <p>第5回 中国近代と中国人の自己発見（1）梁啓超にみる漢民族と国民国家</p> <p>第6回 同上（2）魯迅の近代人の発見と儒教批判</p> <p>第7回 近代人の創出（1）宗教改革</p> <p>第8回 同上（2）ウェーバーによるプロテスタントの倫理の発見</p> <p>第9回 個と集団の関係の日中比較（1）日本における家族・村落・封建制</p> <p>第10回 同上（2）日本における自己と共同性（世の中）</p> <p>第11回 同上（3）中国における家族・宗族と村落・国家</p> <p>第12回 同上（4）中国における私（個）と共同性（国家）</p> <p>第13回 働くとはどういうことか（1）アリとキリギリス</p> <p>第14回 同上（2）日本人の勤労原理と中国人の発財原理</p> <p>第15回 比較とは何か</p>
授業の概要と目的	日本人と中国人の考え方や行動の異同を、日中両国の社会構造と歴史の比較を通して考察する。時間的契機とは、どこの国においても近代社会とそれ以前の社会とで個人や集団についての捉え方が異なること、いわゆる伝統的価値観と近代的価値観の比較という意味であり、社会的契機とは日本型の社会と中国型の社会の特質自体に根ざす異同という意味である。本講義ではこの四者の相互関係に注目したい。
テキスト	指定しない。授業時に資料を配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	授業への参加の態度と、適宜行う小レポート及び試験時の大レポート
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控え室で受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	特になし
準備学習について	当日配布した資料を全部読んで復習しておいてください。

講義科目名称：日本現代社会論

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
小田部 雄次			

テーマ	日々生起する数々の現代社会の出来事を知り、その社会的背景や歴史的意味などを考えます。
授業計画	毎週、日々の社会的出来事をもとに受講生が制作した時事川柳をプリントして、それを素材にして講義を行います。講義の終了時に、主にその日の講義で学んだ時事川柳の解釈、時事問題に関する漢字のチェック、自らが最も関心のある時事ニュース、その週に自らが作成した時事川柳を、まとめとして提出してもらいます。また、適宜、本学図書館の新聞データベースを利用してもらいます。毎回のパターンは同じですが、日々生起する社会的出来事は、毎週変わりますので、そうした変化する事象を毎回追っていきます。半期で大きく変化したことや、あまり変化しなかったことなどを意識しながら、現代社会の動向とその歴史的意味について考えていきます。
授業の概要と目的	毎時間、その週内にあった出来事を確認しながら、その出来事の社会的背景などを学んでいきます。受講生が自ら時事川柳を作ることで、自ら現代社会へ関心を向け、さらにその内容の共有を促進し、周囲の友人たちが、どのような問題を重視しているかを考えます。そのことで、現代社会にいる自らの置かれた位置を確認していきます。
テキスト	毎回プリントを用意するので、特に必要ありません。
参考文献	講義内で適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	毎回、前回の復習プリントとまとめプリントをします。復習プリントの満点は2点、まとめは3点です。復習は2点×14回=28点、まとめプリント3点×15回分=45点、合計73点になります。残りの27点は適宜、無欠席点や平常点として加算します。
質問・相談の受付方法	講義中でも、講義後でも自由に質問や相談をしてください。ただし、講義を必要以上に長く中断させるような場合であれば、講義後をお願いします。
履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	受講生が多い場合は座席指定にしますので、ご承知おきください。
準備学習について	毎回、前回の復習プリントをしますので、事前に整理しておいてください。

講義科目名称：日本現代文化論

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
小田部 雄次			
テーマ	日々生起する数々の現代社会の出来事を知り、その文化的背景や歴史的意味などを考えます。		
授業計画	毎週、日々の文化的出来事をもとに受講生が制作した時事川柳をプリントして、それを素材にして講義を行います。講義の終了時に、主にその日の講義で学んだ時事川柳の解釈、時事問題に関する漢字のチェック、自らが最も関心のある時事ニュース、その週に自らが作成した時事川柳を、まとめとして提出してもらいます。また、適宜、新聞データベースなども利用してもらいます。15回のパターンは同じですが、日々生起する社会的出来事は、毎週変わりますので、そうした変化する事象を毎回追っていきます。半期で大きく変化したことや、あまり変化しなかったことなどを意識しながら、現代文化の動向とその歴史的意味について考えていきます。		
授業の概要と目的	毎時間、その週内にあった出来事を確認しながら、その出来事の文化的背景などを学んでいきます。受講生が自ら時事川柳を作ることで、自ら現代社会へ関心を向け、さらにその内容の共有を促進し、周囲の友人たちが、どのような問題を重視しているかを考えます。そのことで、現代社会にいる自らの置かれた位置を確認していきます。		
テキスト	毎回プリントを用意するので、特に必要ありません。		
参考文献	講義内で適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	毎回、復習プリントとまとめプリントをします。復習プリントは2点満点、まとめプリントは3点満点です。復習プリントは2点×14回＝28点、まとめプリントは3点×15回＝45点、合計で73点になります。あとの27点は適宜、無欠席点や平常点として加算します。		
質問・相談の受付方法	講義中でも、講義後でも自由に質問や相談をしてください。ただし、講義を必要以上に長く中断させるような場合であれば、講義後をお願いします。		
履修条件	特にありません。		
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
メッセージ	受講生が多い場合は座席指定にしますので、ご承知おきください。		
準備学習について	毎時間のはじめに前回の復習プリントをしますので、事前に整理しておいてください。		

講義科目名称：日本語A

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	2	選択
担当教員			
久島 茂			

テーマ	日本語の音声の性質を理解する。
授業計画	<p>第1回 人間の声と動物の声の違い</p> <p>第2回 音声器官と呼吸器官・消化器官</p> <p>第3回 言語音の獲得</p> <p>第4回 子音の種類</p> <p>第5回 母音の種類</p> <p>第6回 「音韻」とは何か</p> <p>第7回 音声と文字の対応</p> <p>第8回 奈良時代の音声</p> <p>第9回 平安時代の音声</p> <p>第10回 万葉仮名について</p> <p>第11回 平仮名といろは歌</p> <p>第12回 源氏物語を当時の発音で読む</p> <p>第13回 中世末期の音声</p> <p>第14回 音声の歴史的変遷</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	音は言語の素材であり、基本を成すので、最初に学ぶ必要がある。具体的に音を聞き、発音をすることで理解を深める。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業時に指示
成績評価の基準・方法	出席、授業時の発言、課題提出、試験を、総合的に評価。
質問・相談の受付方法	講義終了後、質問・相談に応じる。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	可
メッセージ	なし
準備学習について	前回の授業内容を復習しておくこと。

講義科目名称：日本語B

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
久島 茂			

テーマ	日本語の文法と意味を様々な側面から理解する。
授業計画	<p>第1回 幼児の一語文とは</p> <p>第2回 単純な文と複雑な文</p> <p>第3回 主語と述語</p> <p>第4回 「は」と「が」の用法</p> <p>第5回 修飾語の種類</p> <p>第6回 動詞の分類</p> <p>第7回 助動詞と助詞の働き</p> <p>第8回 受身文と使役文</p> <p>第9回 テンスとアスペクト</p> <p>第10回 否定文の意味</p> <p>第11回 単語の意味とは</p> <p>第12回 単語の意味分析</p> <p>第13回 多義的な語</p> <p>第14回 単語の意味変化</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	日本語の文の規則・単語の意味を理解し、正しく書き表す方法を学ぶ。注意すべき誤用についても触れる。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業時に指示
成績評価の基準・方法	出席、授業時の発言、課題提出、試験を、総合的に評価。
質問・相談の受付方法	講義終了後、質問、相談に応じる。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	可
メッセージ	なし
準備学習について	前回の授業内容を復習しておくこと。

講義科目名称：日本語表現法A

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
久島 茂			

テーマ	日本語で正しく分かりやすく表現する方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 正確な表現とは</p> <p>第2回 文法的な誤りを含む文</p> <p>第3回 語彙的な誤りを含む文</p> <p>第4回 表記の誤りを含む文</p> <p>第5回 理解しにくい文</p> <p>第6回 誤解されやすい文</p> <p>第7回 無駄の多い文</p> <p>第8回 ポイントをつかんだ文</p> <p>第9回 複雑な内容を表現する練習 (1)</p> <p>第10回 複雑な内容を表現する練習 (2)</p> <p>第11回 介護体験報告文 (1)</p> <p>第12回 介護体験報告文 (2)</p> <p>第13回 現代的テーマ (脳死) の文章</p> <p>第14回 現代的テーマ (介護・ケア) の文章</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	論理的で分かりやすい文章を書くための基礎知識を身に付ける。社会的に決められている書式の決まりについても学ぶ。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業時に指示
成績評価の基準・方法	出席、授業時の発言、課題提出、試験を、総合的に評価。
質問・相談の受付方法	講義終了後、質問、相談に応じる。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	なし
準備学習について	前回の授業内容を復習しておくこと。

講義科目名称：日本語表現法B

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
久島 茂			

テーマ	心の思いが伝わる文章とはどういうものか学ぶ
授業計画	<p>第1回 文章は何を伝え、何を伝えないか</p> <p>第2回 体験の語り方</p> <p>第3回 登場人物の設定と役割</p> <p>第4回 向田邦子の文章の検討1</p> <p>第5回 向田邦子の文章の検討2</p> <p>第6回 向田邦子の文章の検討3</p> <p>第7回 物語の読解1</p> <p>第8回 物語の読解2</p> <p>第9回 物語の読解3</p> <p>第10回 人物を語るコラムの比較</p> <p>第11回 散文と詩の表現の違い</p> <p>第12回 議論・反論の文章1</p> <p>第13回 議論・反論の文章2</p> <p>第14回 議論・反論の文章3</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	さまざまな優れた文章を多数味わい、理解することによって、表現する方法を身に付ける。自分ひとりで表現の練習をするだけでなく、それを他人がどう読み感じ取るかが重要であることを学ぶ。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業時に指示
成績評価の基準・方法	出席、授業時の発言、課題提出、試験を、総合的に評価。
質問・相談の受付方法	講義終了後、質問、相談に応じる。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	なし
準備学習について	前回の授業内容を復習しておくこと。

講義科目名称：生活と健康

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	必修
担当教員			
齋藤 剛			

テーマ	健康の意義を理解し、その維持・増進のための効果的な運動・スポーツ実践について理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 健康について</p> <p>第2回 健康の概念について グループワークを行う。</p> <p>第3回 健康と体力の関係 体力を理解し、健康との関連性について議論する。</p> <p>第4回 運動と生活習慣病1 生活習慣病の現状と課題について理解する。</p> <p>第5回 運動と生活習慣病2 肥満を解消するための運動条件について理解する。</p> <p>第6回 運動と生活習慣病3 糖尿病の予防・改善につながる運動について理解する。</p> <p>第7回 運動と生活習慣病4 高血圧症と運動の関係について理解する。</p> <p>第8回 トレーニングと健康 トレーニングが健康にどのように貢献するか理解する。</p> <p>第9回 運動とストレス1 運動はストレスを改善するのか考察する。</p> <p>第10回 運動と熱中症 運動時の熱中症予防について理解する。</p> <p>第11回 運動とメンタルヘルス1 日本のうつ病などの精神疾患の状況を理解する。</p> <p>第12回 運動とメンタルヘルス2 運動とメンタルヘルスの関係を理解する。</p> <p>第13回 運動と認知機能 運動と認知機能の関係を理解する。</p> <p>第14回 健康とスポーツ1 現代社会におけるスポーツの意義について理解する。</p> <p>第15回 健康とスポーツ2 生涯にわたるスポーツ実践の重要性を理解する。</p>
授業の概要と目的	<p>(概要) 私たちは運動やスポーツが、心身の健康の維持・増進に貢献することを良く知っている。一方で、運動やスポーツが、どのようなメカニズムで心身に良い影響を及ぼすのかについてはあまり知られていない。本講義では、まず健康の概念について考察した後で、様々な観点から運動が健康に与える影響について科学的知見をもとに議論する。また、現代社会におけるスポーツの意義についても理解を深め、生涯にわたって運動・スポーツ実践ができるような素養を身につける。</p> <p>(目的) 生涯にわたって健康で質の高い生活を営むための運動、スポーツの意義について考える。</p>
テキスト	必要に応じテキストを配布
参考文献	適時紹介
成績評価の基準・方法	毎回の小テストの結果とまとめの学習到達度から判断します(配点 50:50)。
質問・相談の受付方法	月曜日以外に305研究室に直接来て頂くか、tsaito@suw.ac.jpまでメールを送ってください。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	意欲的、積極的学習をしてください。
準備学習について	授業終了後に次回の授業内容について提示するので、しっかりと確認してください。

講義科目名称：スポーツ実習（子ども学科クラス）

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	1年	2	必修
担当教員			
齋藤 剛			

テーマ	基本的な運動処方、スポーツ技術を身につけ、運動、スポーツを楽しむ。
授業計画	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業の進め方、今後の予定 2. 体力測定 3. ウォームアップとクーリングダウン1（それらの意味とその効果について） 4. ウォームアップとクーリングダウン2（安全かつ効果的なやり方） 5. バドミントン1；ルールを理解 6. バドミントン2；打ち方の理解 7. バドミントン3；2人組みでラリー 8. バドミントン4；ダブルスのルールと戦術 9. バドミントン5；ダブルスで試合1 10. バドミントン6；ダブルスで試合2 11. 卓球1；ルールを理解 12. 卓球2；打ち方の理解 13. 卓球3；打ち方の練習 14. 卓球4；ラリーをつづける 15. 卓球5；試合 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. バレーボール1；ソフトバレーボール 17. バレーボール2；ルールを理解 18. バレーボール3；2人組みでのパス（アンダーハンドパス） 19. バレーボール4；2人組みでのパス（オーバーハンドパス） 20. バレーボール5；サーブ、レシーブの練習 21. バレーボール6；試合 22. バasketボール1；ルールを理解 23. バasketボール2；パスの理解 24. バasketボール3；3 on 3 25. バasketボール4；試合 26. ソフトボール1；ルールを理解 27. ソフトボール2；試合 28. フライングディスク1；種目の理解 29. フライングディスク2；様々な投げ方 30. 体力測定2

授業の概要と目的	運動は、生活習慣病の予防・改善だけでなく、積極的に健康を維持・増進する効果を持つことが明らかになっている。この授業では、いくつかのスポーツを、楽しく、安全に、継続して行えるように、それらのスポーツの技術と知識を学習する。同時に、怪我なく安全に運動・スポーツを行えるように、ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義、方法についても学習する。
テキスト	必要に応じテキストを配布
参考文献	適時紹介
成績評価の基準・方法	授業態度と体力テスト（授業の最初と最後に体力テストを行いその変化から評価します） 授業態度：レポート＝80：20
質問・相談の受付方法	月曜日以外に305研究室に直接来て頂くか、tsaito@suw.ac.jpまでメールを送ってください。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	意欲的、積極的学習をしてください。
準備学習について	事前に授業で行うスポーツについて予告しますので、そのスポーツについての歴史、ルールについて調べて臨むようにしてください。

講義科目名称：レクリエーション実習

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	選択
担当教員			
齋藤 剛			

テーマ	レクリエーションの意義を理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. レクリエーションについてグループワーク 3. ネイチャーゲーム① (ネイチャーゲーム理論、初めましてカード、コウモリとガ、まとめ) 4. ネイチャーゲーム② (フィールドビンゴ、音いくつ、居眠りおじさん、まとめ) 5. ネイチャーゲーム③ (木の鼓動、カメラゲーム、私の木の事前演習) 6. ネイチャーゲーム④ (動物交差点、私の木、マイクロハイク) 7. ネイチャーゲーム⑤ (木の葉カルタとり、サウンドマップ、フォールドポエム) 8. ボードゲーム 9. クラフト、紙飛行機、ブーメラン 10. ニュースポーツ (体育遊び) 11. ニュースポーツ (ペタボード、ユニカーリング) 12. ニュースポーツ (インディアカ、ソフトバレーボール) 13. 学生によるレクリエーション 14. 学生によるレクリエーション 15. まとめ
授業の概要と目的	レクリエーションとは、多くの場合、仕事や、勉学の疲れを癒すための休養や娯楽という意味で使われている。しかし、レクリエーションをよりよい遊びと捉えれば、娯楽や休養ということだけでなく、生きがい、生活の質と大きく関わってくる。我々が、大きな達成感や満足感が得られる経験とはどのようなものなのか、考え、実践していくなかで、自分にとってのレクリエーションを見つけてもらいたい。授業では、前半は自然体験プログラムであるネイチャーゲームを、後半は、カルチャー、スポーツレクリエーションを行う。さらに、グループを作ってもらい、グループごとにレクリエーションを企画・運営してもらおう予定である。
テキスト	必要に応じテキストを配布
参考文献	適時紹介
成績評価の基準・方法	授業態度とレポート (単位取得に当たってレポート提出は必須) 授業態度：レポート＝80：20
質問・相談の受付方法	月曜日以外に305研究室に直接来て頂くか、tsaito@suw.ac.jpまでメールを送ってください。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	意欲的、積極的学習をしてください。
準備学習について	事前に授業に行うレクリエーションアクティビティの資料を渡しますので、事前に確認してください。

講義科目名称：統計学の基礎

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
岡澤 裕子			

テーマ	統計的なものの考え方や統計手法の基礎を学ぶ
授業計画	<p>第1回 統計学の考え方</p> <p>第2回 統計学の分析概念</p> <p>第3回 標本分布の特性値</p> <p>第4回 確率と確率分布</p> <p>第5回 二項分布とポアソン分布</p> <p>第6回 一様分布と正規分布</p> <p>第7回 標準正規分布</p> <p>第8回 統計的有意性 — 信頼係数・有意水準</p> <p>第9回 標本平均の分布と母平均の推定</p> <p>第10回 t分布と母平均の推定</p> <p>第11回 分布と母標準偏差の推定</p> <p>第12回 仮説検定</p> <p>第13回 相関分布</p> <p>第14回 回帰分析</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と目的	統計学の初心者を対象として、統計的なものの考え方とその手法を解説し、統計学に関する体系的な知識を習得することを目的とする。毎回の講義において、理解を深めるための演習問題を行い、理解の手助けとする。
テキスト	<p>テキスト名：はじめての統計学</p> <p>ISBN：978-4532130749</p> <p>出版社：日本経済新聞社</p> <p>著者名：鳥居泰彦</p> <p>価格（税抜）：2,233円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	授業中に実施する課題と学期末の試験で評価する。（配点 50：50）
質問・相談の受付方法	毎回提出する出席用紙に質問欄を設けますので、そこで記入してください。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	身近なデータを数学的に捉える楽しさを学びましょう。
準備学習について	毎授業後にはレポートを提出すること。

講義科目名称：自然科学の基礎

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
岡澤 裕子			

テーマ	宇宙・物質・生命
授業計画	<p>第1回 目で見える世界</p> <p>第2回 ものを見るということ、電磁波</p> <p>第3回 時間と空間の広がり</p> <p>第4回 小さな物質の世界</p> <p>第5回 宇宙の認識①</p> <p>第6回 宇宙の認識②</p> <p>第7回 宇宙の誕生と進化①</p> <p>第8回 宇宙の誕生と進化②</p> <p>第9回 星の一生</p> <p>第10回 地球の誕生と進化</p> <p>第11回 地球の環境①</p> <p>第12回 地球の環境②</p> <p>第13回 物質と生命</p> <p>第14回 自然理解へのアプローチ</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と目的	宇宙や地球の成り立ちを学びながら、身の回りの自然と環境について自然科学の観点から再考する。また、自然科学の歴史を通じて私たちがこれまで自然をどのように認識してきたのかを学び、自然科学がどのような学問であるのかを考える。
テキスト	テキストは指定しません。
参考文献	講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	授業中に実施する課題と学期末のレポートで評価します。（配点 40：60）
質問・相談の受付方法	出席用紙に質問欄を設けるので、記入してください。質問事項に関しては次回の授業で解説・補足します。その他、オフィスアワー（後日掲示）もご利用ください。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	自然の不思議さ、面白さ、美しさを楽しみましょう。
準備学習について	毎授業後にレポートを提出すること。

講義科目名称：生命と倫理

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
山下 秀智			

テーマ	現代における生と死
授業計画	<p>第1回 生命倫理の展開</p> <p>第2回 インフォームド・コンセント</p> <p>第3回 遺伝子解読</p> <p>第4回 西洋医学の伝統</p> <p>第5回 死の隠蔽・タブー化</p> <p>第6回 中絶と出生前診断</p> <p>第7回 生殖技術</p> <p>第8回 脳死と臓器移植</p> <p>第9回 安楽死・尊厳死</p> <p>第10回 エイズ・薬害</p> <p>第11回 高齢化社会</p> <p>第12回 パーソン論</p> <p>第13回 仏教の生命観</p> <p>第14回 キリスト教の生命観</p> <p>第15回 生命の諸次元</p>
授業の概要と目的	21世紀は生命科学の時代といわれる。生命の自然な誕生と自然な死のあり方の中に、生命操作技術が大きく介入し始めている。それと共に新たな倫理的諸問題が生起してきた。この講義では、いわゆる生命倫理の基本テーマをスライドやビデオを使いながら、分かりやすく学んでいきたい。
テキスト	<p>テキスト名：（テーマ30生命倫理の改訂版が出る予定）</p> <p>ISBN：</p> <p>出版社：教育出版株式会社</p> <p>著者名：生命倫理教育研究協議会</p> <p>価格（税抜）：1200円</p>
参考文献	今井道夫・香川智晶編『バイオエシックス入門』（東信堂）2001年 その他多数あるので、講義の初回に詳しく紹介する。
成績評価の基準・方法	授業への参加状況（レスポンスカードの記入内容）、学期末のレポートで評価する。
質問・相談の受付方法	レスポンスカードに積極的に記入してほしい。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	現代における死生観確立のために、共に学びましょう！
準備学習について	次回テーマについて、テキストを読んでおくこと。

講義科目名称：医学知識

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
磯田 雄二郎			

テーマ	社会福祉関連専門職のための医学知識の修得をはかる
授業計画	<p>第1回 人の成長・発達・加齢</p> <p>第2回 人体の構造と機能 (人体の概観・細胞・血液)</p> <p>第3回 人体の構造と機能 (器官系別にみた構造と機能) 循環器・呼吸器・消化器系</p> <p>第4回 泌尿器・内分泌・神経・免疫系</p> <p>第5回 運動器・感覚器・生殖器系</p> <p>第6回 ICF (国際生活機能分類) の概要, 健康のとらえ方</p> <p>第7回 一般臨床医学の概要 (病気の起こる仕組み、病気の診断、治療・予防)</p> <p>第8回 疾病の概要</p> <p>第9回 悪性腫瘍 感染症 神経・精神・運動器・循環器疾患</p> <p>第10回 呼吸器・消化器・泌尿器・皮膚・先天性疾患 女性の疾患</p> <p>第11回 障害の概要</p> <p>第12回 視覚・聴覚・音声言語・失調、平衡機能障害 肢体不自由 知的・発達障害 内部障害</p> <p>第13回 高齢者と介護予防, リハビリテーションの概要</p> <p>第14回 医学と社会および公衆衛生の動向</p> <p>第15回 保健医療サービス</p>
授業の概要と目的	介護福祉士・社会福祉士・社会福祉主事・社会福祉施設長など幅広い人材に必要な医学知識 (人体・疾患・障害・医療事情) を学ぶ。
テキスト	講談社サイエンティフィク「栄養科学シリーズ NEXT 臨床医学入門」 河田光博・武田英二 編著
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	試験での評価：50% 授業での態度等：50%
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室 (研究室棟1階) で受け付ける。
履修条件	【必須要件】2013年度入学以降の学生から履修可。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	理解しにくいと思いますが、復習や繰り返しを行いながら、一つひとつ覚えていきましょう。
準備学習について	指定の教科書をよく読んでください。

講義科目名称：キャリア支援 I - A (子ども学科クラス)

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	1	必修
担当教員			
向山 守			

テーマ	大学生生活の心構え、方法を学び、大学生生活をデザインする。
授業計画	<p>第1回 大学基礎学① 大学での履修と生活の特徴を知ろう</p> <p>第2回 大学基礎学② 大学内の施設を確かめよう</p> <p>第3回 大学基礎学③ 図書館ガイダンス</p> <p>第4回 大学基礎学④ 大学周辺を知ろう</p> <p>第5回 コミュニケーション① コミュニケーションの始まり・自己紹介</p> <p>第6回 コミュニケーション② 自分を知ろう、友達を知ろう</p> <p>第7回 コミュニケーション③ 人生でやりたいこと、人生の夢を語ろう</p> <p>第8回 社会展望① 夢を実現するために大学でできること</p> <p>第9回 社会展望② 仕事を知ろう</p> <p>第10回 社会展望③ 社会で役立つ知識や資格を知ろう</p> <p>第11回 社会展望④ 社会の一員としての自分、世界の中の自分を知ろう</p> <p>第12回 グループワーク① 自分の夢をかなえるために</p> <p>第13回 グループワーク② 社会生活とマナーについて考えよう</p> <p>第14回 グループワーク③ ボランティアについて考えよう</p> <p>第15回 グループワーク④ 人生を、大学生生活をいかに生きたいかまとめよう</p>
授業の概要と目的	学生時代を有意義に送るために動機付けし、心構えを学ぶ。高校時代を振り返る。大学卒業後の自分の姿、人生を考える。自己を知る、他者を理解する。健康、栄養、時間管理を学ぶ。大学生生活をデザインする。働くことの意味、人生設計を考える。適宜、グループワーク、意見発表などを行う。基本的なマナーも学ぶ。
テキスト	適宜プリント等を配布する。
参考文献	授業中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	出席状況 60% 授業態度 20% ミニレポート 20%
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室等で受け付ける。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	これからの大学生生活を有意義に送るために休まずに出席すること。
準備学習について	前回は指示された予習をしっかりとってきてください。

講義科目名称：キャリア支援 I - B (子ども学科クラス)

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	1	必修
担当教員			
小田部雄次、向山守、河合修身、岡澤裕子、山下紗織			

テーマ	社会人になるための情報収集と自己表現法を学ぶ
授業計画	<p>第1回 半期の講義全体の説明を5人で分担して行う。</p> <p>第2回 小田部：①佐々木常夫「強くなければ仕事はできない」を読む。</p> <p>第3回 小田部：②佐々木常夫「欲が磨かれて志になる」を読む。</p> <p>第4回 向山：①「ことばのしくみ」について考える。</p> <p>第5回 向山：②「ことばのしくみ その応用」を考える。</p> <p>第6回 河合：①ニュースに関心を持とう、新聞を読もう。</p> <p>第7回 河合：②政治・経済の動きと自分たちの生活。</p> <p>第8回 河合：③社会の動きと自分たちの生活。</p> <p>第9回 河合：④世界の動きと自分たちの生活。</p> <p>第10回 岡澤：①自然の成り立ち。</p> <p>第11回 岡澤：②宇宙からみた私たち。</p> <p>第12回 山下：①「物語」を生きる。</p> <p>第13回 山下：②「物語」をつくる。</p> <p>第14回 スピーチコンテストを傍聴する。</p> <p>第15回 スピーチコンテストのあらましと感想をまとめる。</p>
授業の概要と目的	小田部・向山・河合・岡澤・山下の5教員が交代で講義を担当する。小田部は、社会人として働くことの意味を考えながら、文章読解や漢字の練習などを行う。向山は、ある問題に対して、根本的に、あるいは、哲学的に考え表現することを学ばせる。河合は、世の中の動きや出来事への関心を高めるとともに、社会人としての知識やルールを身につける狙いで時事問題を中心に解説する。岡澤は自然と人間をテーマに自然や宇宙と私たちのつながりを考えさせる。山下は、絵本や童話などの物語に親しみ、生きることと物語との関係を考えさせる。
テキスト	特になし
参考文献	特にないが、講義時間中に適宜、指定する。
成績評価の基準・方法	5人の担当教員の総合評価になる。スピーチコンテストのまとめがレポートの評価対象となる。
質問・相談の受付方法	講義中または講義後。
履修条件	本学の1年生であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	-
準備学習について	各教員の担当が終わるごとに、いままでのまとめをしますので、それぞれの教員から学んだことを、事前に整理しておいてください。

講義科目名称：キャリア支援Ⅱ－A

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	1	必須
担当教員			
工藤 佐紀子			

テーマ	学生生活のキャリアデザインを通して社会人としての基礎力を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、「キャリアデザイン」の意味を考える</p> <p>第2回 大学生活の意味や意義を考える</p> <p>第3回 これまでの「自分」の整理</p> <p>第4回 今の「自分」を知り、これからの学生生活を考える</p> <p>第5回 これからの学生生活で取り組むこと、目標設定</p> <p>第6回 自分の役割と責任について</p> <p>第7回 社会で働くということ、働き方について</p> <p>第8回 仕事を知る、仕事について考える</p> <p>第9回 社会人としてのエチケットやマナー</p> <p>第10回 マナーの実践</p> <p>第11回 社会で求められるもの</p> <p>第12回 他者から見た自分</p> <p>第13回 自分の強みや弱み、価値観を知る</p> <p>第14回 一般常識問題を解く</p> <p>第15回 基礎学力と自己課題</p>
授業の概要と目的	学生生活のキャリアデザインを通して、社会人としての基礎力を身に付けることを目標とする。自分の将来を見据え、学生生活のキャリアデザインを行うとともに、新聞やニュースも引用し、基礎学力問題（一般常識）にも適宜取り組み、授業感想シートを提出することで文章力も鍛える。
テキスト	<p>テキスト名：MY CAREER NOTE I (ADVANCE)</p> <p>ISBN： 出版社：ベネッセコーポレーション</p> <p>著者名： 価格（税抜）：</p>
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況（授業感想シート含む）、授業態度：60% ・課題提出：20% ・定期試験（一般常識模試）の結果：20%
質問・相談の受付方法	講義前後に教室、またはキャリア支援課で受け付けます。
履修条件	【必須要件】教科書を購入、持参すること。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく出席を重視します。欠席回数が多い場合は面談いたします。 ・遅刻、私語、居眠り、飲食は厳禁。ビジネスマナーを身に付けていきます。 ・課題の提出、定期試験も大きな評価点です。講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。欠席した場合は直ぐにキャリア支援課に来て下さい。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に次回の予習内容を指示します。 ・授業内で終了しなかったワークシートは必ず完成させて下さい。適宜コピーを提出していただきます。

講義科目名称：キャリア支援Ⅱ－B

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	必須
担当教員			
工藤 佐紀子			

テーマ	キャリアデザインを実践していく。社会人としての基礎力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、価値観診断強み発見ツールSCALEの実施</p> <p>第2回 公務員セミナー</p> <p>第3回 集団討論演習①SCALE診断結果返却</p> <p>第4回 集団討論演習②強みを活かす（個人編）</p> <p>第5回 集団討論演習③強みを活かす（チームワーク編）</p> <p>第6回 「私のキャリアデザイン」の仕上げ</p> <p>第7回 キャリアデザインの発表①</p> <p>第8回 キャリアデザインの発表②</p> <p>第9回 キャリアデザインの発表③</p> <p>第10回 キャリアデザインの発表④</p> <p>第11回 キャリアデザインの発表⑤</p> <p>第12回 SPI試験対策（言語）</p> <p>第13回 SPI試験対策（非言語）</p> <p>第14回 SPI試験模試の実施</p> <p>第15回 資格と仕事、働き方を考える</p>
授業の概要と目的	1年を通して「キャリアデザインの基礎力を身につける」ことを目標とする。後期Bでは、基礎力のアップを図る。講義形式の授業の中で、ペアワークやグループワークなども取り入れプレゼンテーション力やディスカッション力も身につける。社会を知るために、新聞記事を読む習慣を身につける。
テキスト	<p>テキスト名：MY CAREER NOTE I (ADVANCE)</p> <p>ISBN： 出版社：ベネッセコーポレーション</p> <p>著者名： 価格（税抜）：</p>
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況（授業感想シート含む）、授業態度：60% ・課題提出：20% ・SPI試験、定期試験の結果：20%
質問・相談の受付方法	講義前後に教室、またはキャリア支援課で受付けます。
履修条件	【必須要件】SCALE受検、SPI受検は必ず行ってください。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく出席を重視します。欠席回数が多数の場合は面談いたします。 ・遅刻、私語、居眠り、飲食は厳禁。ビジネスマナーを身に付けていきます。 ・課題の提出、定期試験も大きな評価点です。講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。欠席した場合は直ぐにキャリア支援課に来て下さい。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に次回の予習内容を指示します。 ・授業内で終了しなかったワークシートは必ず完成させて下さい。適宜コピーを提出していただきます。 ・プレゼンテーションの準備や練習を必ず行ってください。

講義科目名称：情報リテラシー（子ども学科クラス）

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択必修
担当教員			
岡澤 裕子			

テーマ	コンピュータおよびネットワークの利用スキルの基礎の習得
授業計画	<p>第1回 PCの基本操作①－Windowsの基本操作と入力の基礎</p> <p>第2回 PCの基本操作②－PCの環境設定、タッチタイピング</p> <p>第3回 PCの基本操作③－インターネットの利用と情報モラル</p> <p>第4回 ワープロ入門①文字の入力と変換</p> <p>第5回 ワープロ入門②文書の作成、編集と保存</p> <p>第6回 ワープロ入門③図表の作成と編集</p> <p>第7回 ワープロ入門④定型文の作成1 文章の体裁を整える</p> <p>第8回 ワープロ入門⑤定型文の作成2 表や図を用いた表現</p> <p>第9回 ワープロ入門⑥テンプレートの活用</p> <p>第10回 表計算入門①入力の基本と表の作成</p> <p>第11回 表計算入門②グラフの作成と編集</p> <p>第12回 表計算入門③データの処理、機能の活用</p> <p>第13回 ワープロと表計算の総合演習 アプリ間のデータ活用</p> <p>第14回 ワープロと表計算の総合演習 スクリーンショット機能、PDFファイル作成</p> <p>第15回 情報を活用するということ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	<p>学科・科目を問わず、在学時の学習や卒業後に必要とされるコンピュータおよびネットワークの利用の基本的な知識とスキルの習得を目的とする。</p> <p>主な学習内容は、コンピュータに関する基本的な知識と操作法、インターネットの利活用と情報モラル、ワードプロセッサによる文書作成、表計算入門などである。授業では学習内容の理解を深めるために、毎回の授業で課題を課す。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『30時間でマスター Word&Excel 2013』 ISBN：978-4407332650 出版社：実教出版 著者名：実教出版編修部 価格（税抜）：945円</p> <p>テキスト名：日本語ワープロ検定試験 模擬問題集3・4級編 ISBN： 出版社：日本情報処理検定協会 著者名： 価格（税抜）：610円</p>
参考文献	講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	毎回の講義後に提出する課題と定期試験の結果で評価します。（配点 40：60）
質問・相談の受付方法	毎回の講義での課題提出（E-Mailによる）の際に、質問事項を記述してください。内容によっては個人的に返信する場合がありますが、基本的には次回の講義の冒頭で質問事項について解説をします。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	授業を欠席した場合には、次回の講義までに授業内容を確認してください。
準備学習について	毎授業後にはレポートを提出すること。

講義科目名称：表計算演習（子ども学科クラス）

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択必修
担当教員			
岡澤 裕子			

テーマ	表計算ソフトウェアを利用したデータの処理
授業計画	<p>第1回 データ入力の基礎</p> <p>第2回 表の作成と編集</p> <p>第3回 計算の基礎</p> <p>第4回 表とセルの書式</p> <p>第5回 グラフの作成と編集① グラフ作成の基礎</p> <p>第6回 グラフの作成と編集② グラフの編集</p> <p>第7回 グラフの作成と編集③ グラフを用いたデータの表現</p> <p>第8回 関数の基本</p> <p>第9回 関数の活用① さまざまな関数</p> <p>第10回 関数の活用② 関数を用いた表検索</p> <p>第11回 データベース① データの検索・置換・並べ替え</p> <p>第12回 データベース② データの集計と抽出、フォームの利用</p> <p>第13回 ワードプロセッサを利用したデータの表現</p> <p>第14回 他のデータベースからのデータの利用</p> <p>第15回 授業の総括</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	表計算ソフトウェアの操作実習をしながら、データを数値化、分析、加工する方法を習得する。また、ワードプロセッサ等の他のソフトウェアとともに利用する方法を学び、より効果的にデータを提示する方法を学ぶ。
テキスト	<p>テキスト名：『30時間でマスター Word&Excel 2013』 ISBN： 出版社：実教出版 著者名： 価格（税抜）：945円</p> <p>テキスト名：情報処理技能検定試験模擬問題集2級編 ISBN： 出版社：日本情報処理検定協会 著者名： 価格（税抜）：667円</p>
参考文献	講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	毎回の講義後に提出する課題と学期末試験の結果で評価します。（配分 40：60）
質問・相談の受付方法	毎回の講義での課題提出（E-Mailによる）の際に、質問事項を記述してください。内容によっては個人的に返信する場合がありますが、基本的には次回の講義の冒頭で質問事項について解説をします。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	授業を欠席した場合には、次回の講義までに欠席分の授業内容を確認しておいてください。
準備学習について	毎授業後にレポートを提出すること。

講義科目名称：コンピュータシステムA

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
岩井 宏			

テーマ	コンピュータや周辺機器の種類・特徴を理解する。
授業計画	<p>第1回 コンピュータ利用上の注意とセキュリティについて</p> <p>第2回 コンピュータにおける情報の表現</p> <p>第3回 補助単位について</p> <p>第4回 コンピュータの種類と機能</p> <p>第5回 入力装置の種類と特徴1</p> <p>第6回 入力装置の種類と特徴2</p> <p>第7回 出力装置の種類と特徴</p> <p>第8回 補助記憶装置の種類と特徴</p> <p>第9回 インタフェースの種類と特徴</p> <p>第10回 ハードウェア総合</p> <p>第11回 オペレーティングシステムの役割と機能</p> <p>第12回 ソフトウェアの設定</p> <p>第13回 ソフトウェアの種類と特徴1</p> <p>第14回 ソフトウェアの種類と特徴2</p> <p>第15回 基数変換、論理演算</p> <p>各項目により分量が違いますので、進み方は若干前後します。</p>
授業の概要と目的	<p>コンピュータ内部の仕組みや、周辺装置の特徴や仕組み、コンピュータが使われている処理システムなど、これからコンピュータを使う上（他のコンピュータ系科目）での土台となる基礎知識を修得する科目である。</p> <p>確認テストを内容の区切りごとに2～3回実施する。</p>
テキスト	<p>テキスト名：情報処理活用試験2級テキスト 2016年度版</p> <p>ISBN：</p> <p>出版社：実教出版</p> <p>著者名：岩井 宏、太田信宏、齋藤裕美、中島寛和、洪 邦夫</p> <p>価格（税抜）：1,500円</p>
参考文献	日経パソコン用語辞典
成績評価の基準・方法	<p>学期末試験、確認テストで評価する。</p> <p>期末試験 70%、確認テスト 30%</p>
質問・相談の受付方法	<p>授業終了時に受け付けます。その他研究室にいる時間帯は随時受け付けます。210研究室を訪ねてください。不在時は、入口の時間割から担当の空き時間を確認し、訪問時間を記入して下さい。</p>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	確認テストの追・再試は行いません。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの用語を授業ごとに覚えるようにして下さい。 ・前回の用語を必ず復習して頂くこと。

講義科目名称：コンピュータシステムB

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
岩井 宏			

テーマ	ネットワークなどの基礎知識、データベースの基礎知識の習得。
授業計画	<p>第1回 インターネットについて、インターネットへの接続</p> <p>第2回 IPアドレス、サーバーについて</p> <p>第3回 WWW、電子メールの仕組みについて</p> <p>第4回 セキュリティとサービス</p> <p>第5回 LANのアーキテクチャ</p> <p>第6回 論理演算と真理値表</p> <p>第7回 IPv4仕組みについて</p> <p>第8回 LANの構成要素、LANの運用形態1</p> <p>第9回 LANの構成要素、LANの運用形態2</p> <p>第10回 情報社会とコンピュータ</p> <p>第11回 個人情報保護法と知的財産権</p> <p>第12回 情報モラルと法制度について</p> <p>第13回 コンピュータセキュリティについて</p> <p>第14回 SQL言語1</p> <p>第15回 SQL言語2</p> <p>各項目により分量が違いますので、進み方は若干前後します。</p>
授業の概要と目的	<p>コンピュータシステムAの続きとして、ネットワークの基礎知識、データベースソフトウェアで 사용되는SQL言語などのこれからコンピュータを使う上での土台となる基礎知識を修得する科目である。</p> <p>確認テストを内容の区切りごとに2～3回実施する。</p>
テキスト	<p>テキスト名：情報処理活用試験2級テキスト 2016年度版 (コンピュータシステムAと同じ)</p> <p>ISBN： 出版社：実教出版</p> <p>著者名：岩井 宏、太田信宏、齋藤裕美、中島寛和、洪 邦夫</p> <p>価格(税抜)：1,500円</p> <p>配布プリント</p>
参考文献	日経パソコン用語辞典
成績評価の基準・方法	<p>学期末試験、確認テストで評価する。</p> <p>学期末試験 70%、確認テスト 30%</p>
質問・相談の受付方法	<p>授業終了時に受け付けます。その他研究室にいる時間帯は随時受け付けます。210研究室を訪ねてください。不在時は、入口の時間割から担当の空き時間を確認し、訪問時間を記入して下さい。</p>
履修条件	【必須要件】コンピュータシステムAを受講していること。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータシステムAと同年に続けて履修した方がよいと思います。 ・確認テストの追・再試は行いません。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの用語を授業ごとに覚えるようにしてください。 ・前回の授業の用語を必ず復習してくること。

講義科目名称：情報社会と倫理

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	選択
担当教員			
加藤 あけみ			
テーマ	情報社会における倫理の問題を情報技術や社会基盤から考える		
授業計画	<p>第1回 授業の位置付けと授業内容の説明</p> <p>第2回 情報社会の歴史的背景と構造</p> <p>第3回 情報社会の光と影</p> <p>第4回 情報社会における法と倫理</p> <p>第5回 知的財産権と情報①</p> <p>第6回 知的財産権と情報②</p> <p>第7回 プライバシーの権利</p> <p>第8回 個人情報の保護</p> <p>第9回 個人情報保護の国際的動向とわが国の取り組み</p> <p>第10回 コンピュータ社会における情報倫理</p> <p>第11回 情報倫理とコンピュータ犯罪</p> <p>第12回 情報倫理とコンピュータセキュリティ</p> <p>第13回 学校教育・運営における情報倫理</p> <p>第14回 学生生活と情報倫理</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業の概要と目的	<p>ドッグイヤーという言葉に象徴される速さで情報技術が進歩し普及する今日の情報社会では、情報に関わるさまざまな問題が同時多発的に生じている。このような現状を踏まえて、情報の基本的な知識を学び、情報の取り扱いを理解した上で、情報社会の歴史的背景、特徴および問題点を把握し、情報と情報技術を消費する立場からの倫理および生産する立場からの倫理を考察し、情報社会に参画する態度を正しく認識する。</p>		
テキスト	<p>テキスト名：情報社会と情報倫理</p> <p>ISBN：978-4621081242</p> <p>出版社：丸善</p> <p>著者名：梅本吉彦</p> <p>価格（税抜）：2,835円</p>		
参考文献	適宜、紹介		
成績評価の基準・方法	学期末の筆記試験（80%）、提出課題（10%）、授業での積極性（10%）によって評価する。		
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、オフィスアワー等に受け付けるが、とくにオフィスアワーを積極的に利用してほしい（研究室：研究棟2F211号）</p> <p>メールも可（アドレス：akato@suw.ac.jp）</p>		
履修条件	特になし		
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>		
メッセージ	<p>1. 遅刻、欠席のないようにして下さい。やむなく欠席する場合は、教員あるいは友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に出席して下さい。</p> <p>2. 課題の提出期日を厳守して下さい。</p>		
準備学習について	適宜、プリントを配布しますので、配布プリントを含めて復習し、内容を理解した上で、次の授業に臨んでください。		

講義科目名称：マルチメディア表現演習A

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	2	選択
担当教員			
加藤 あけみ			

テーマ	プレゼンテーションソフトの習得を通して、マルチメディア表現技法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 授業の位置付けと授業内容の説明</p> <p>第2回 アウトライン表示モードによるスライドの作成</p> <p>第3回 スライドの編集① テキストの編集</p> <p>第4回 スライドの編集② オブジェクトの追加</p> <p>第5回 スライドの編集③ 図表の利用（1）</p> <p>第6回 スライドの編集④ 図表の利用（2）</p> <p>第7回 スライドのデザインや背景</p> <p>第8回 アニメーション効果、リンクの設定</p> <p>第9回 配布資料の作成、リハーサル、スライドショーの実行</p> <p>第10回 課題作成①</p> <p>第11回 課題作成②</p> <p>第12回 課題作成③</p> <p>第13回 課題作成④</p> <p>第14回 課題発表の準備</p> <p>第15回 課題発表</p>
授業の概要と目的	プレゼンテーションソフトを活用して、効果的なスライドの作成について学び、資料作成、リハーサルおよびプレゼンテーションの方法を学習する。
テキスト	適宜、プリントを配布
参考文献	竹島慎一郎 著「見える企画書&プレゼンの極意」ASCII 他
成績評価の基準・方法	提出課題の完成度（80％）と授業での積極性（20％）によって評価する。 無断欠席1回につき3点減点。 正当な理由のない遅刻をしないこと（3回以上の受講生は減点の対象とする）
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等に受け付けるが、とくにオフィスアワーを積極的に利用してほしい（研究室：研究棟2 F 211号） メールも可（アドレス：akato@suw.ac.jp）
履修条件	【必須要件】「情報リテラシー」および「表計算演習」を履修、またはそれと同等の知識を有すること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	1. 履修者は30名以内とし、履修希望者が多い場合は選抜としますので、1回目の授業に必ず出席してください。 2. 遅刻、欠席のないようにして下さい。やむなく欠席する場合は、教員あるいは友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に出席して下さい。
準備学習について	授業は積み重ねて進んでいきますので、毎回、授業の内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨んでください。

講義科目名称：マルチメディア表現演習B

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
加藤 あけみ			

テーマ	プレゼンテーションソフトによるマルチメディア表現を活用した効果的なプレゼンテーション技法を習得する。
授業計画	<p>第1回 効果的なプレゼンテーション技法について</p> <p>第2回 効果的なスライドの作成：文章を箇条書きにする</p> <p>第3回 効果的なスライドの作成：表図解の活用①</p> <p>第4回 効果的なスライドの作成：表図解の活用②</p> <p>第5回 効果的なスライドの作成：箇条書きを表図解にする①</p> <p>第6回 効果的なスライドの作成：箇条書きを表図解にする②</p> <p>第7回 効果的なスライドの作成：箇条書きを表図解にする③</p> <p>第8回 課題作成① 具体的な場面を想定して各人がテーマを決定し、情報の収集から内容を整理、情報を提示、伝達するプロセスを実際に経験する。</p> <p>第9回 課題作成②</p> <p>第10回 課題作成③</p> <p>第11回 課題作成④</p> <p>第12回 課題作成⑤</p> <p>第13回 課題作成⑥：プレゼンテーションの準備 プレゼンテーション実施への準備（発表資料の作成、リハーサル等）</p> <p>第14回 プレゼンテーションの実施および検討① プレゼンテーションごとに、効果的なプレゼンテーションについて検討する。</p> <p>第15回 プレゼンテーションの実施および検討②</p>
授業の概要と目的	具体的な場面を想定して各人がテーマを決定し、情報の収集から内容を整理、情報を提示、伝達するプロセスを実際に体験する。この体験をとおして、効果的なプレゼンテーション技法について学び、実際に活用できる力を育成する。
テキスト	適宜、プリントを配布
参考文献	HRインスティテュート「プレゼンテーションのノウハウ・ドゥハウ」PHP文庫他
成績評価の基準・方法	提出課題の完成度とプレゼンテーション（80%）および授業での積極性（20%）によって評価する。無断欠席1回につき3点減点。 正当な理由のない遅刻をしないこと（3回以上の受講生は減点の対象とする）
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等に受け付けるが、とくにオフィスアワーを積極的に利用してほしい（研究室：研究棟2F211号） メールも可（アドレス：akato@suw.ac.jp）
履修条件	【必須要件】「マルチメディア表現演習A」を履修、またはそれと同等の知識を有すること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	1. 履修者は30名以内とし、履修希望者が多い場合は選抜としますので、1回目の授業に必ず出席してください。 2. 遅刻、欠席のないようにして下さい。やむなく欠席する場合は、教員あるいは友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に出席してください。
準備学習について	授業は積み重ねて進んでいきますので、毎回、授業の内容を復習して疑問点等を確認し、疑問点等がある場合は、次の授業で問題解決に向けて質問できるように準備して授業に臨んでください。

講義科目名称：国語

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	必修
担当教員			
久島 茂			

テーマ	幼児・子どもが言葉を覚え使いこなすことができるようにするには、指導者はどうすべきか。そのために必要な日本語の基礎的な知識を身につける。幼児・子どもの言葉が大人という言葉とどのように違うのかについて理解する。
授業計画	<p>第1回 言葉とは何か。言葉の獲得以前と以降。</p> <p>第2回 音声のしくみ、幼児に難しい音。</p> <p>第3回 方言の音とアクセント。</p> <p>第4回 一語文と文法。</p> <p>第5回 文の組み立て、子どもが間違えやすい文法。</p> <p>第6回 単語の並べ方、つながり方。</p> <p>第7回 単語があることと欠けていること。</p> <p>第8回 語彙が互いに分担する意味、その広がり。</p> <p>第9回 文字の働き。文字の形の単純さと複雑さ。</p> <p>第10回 仮名と漢字。漢字の忘れやすさ。</p> <p>第11回 話し言葉と書き言葉の違い。</p> <p>第12回 言葉の創造性と擬音語。</p> <p>第13回 敬語、子どもの敬語とは。</p> <p>第14回 言葉遊びと言語の機能。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	幼児・子どもを指導するのに必要な、日本語の性質を広い観点から概説する。発音の仕組み、音声の分類、一語文からの文の発達、文の組み立て方、語彙の獲得、語彙の役割、文字の働き、等。言葉の発達に役立つ、音声によるしりとり遊びや早口言葉、意味によるなぞなぞ遊び、擬音語の遊び、等も取り上げる。話し言葉と書き言葉の違い、それぞれの特徴も概説する。
テキスト	<p>テキスト名：やさしい日本語のしくみ</p> <p>ISBN：978-4874242841</p> <p>出版者：くろしお出版</p> <p>著者：庵功雄他</p> <p>価格：1,080円</p>
参考文献	授業時に指示する。
成績評価の基準・方法	授業時の発言、課題提出、試験の結果を総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	授業終了後またはオフィスアワー
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	なし
準備学習について	前回の授業内容を確認しておくこと。

講義科目名称：生活

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	必修
担当教員			
増田 啓子			

テーマ	現代の子どもの実態を捉える。生活科の教育内容を学び、生活科の授業案が作成できるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 少子化と子どもの環境</p> <p>第3回 現代の家族問題</p> <p>第4回 子育ての現場</p> <p>第5回 子どもと食生活</p> <p>第6回 食育について</p> <p>第7回 幼児期からの消費者教育（1）消費者教育とは</p> <p>第8回 幼児期からの消費者教育（2）インセンティブを活かした教育</p> <p>第9回 自分史づくり（理論）</p> <p>第10回 自分史づくり（実践）</p> <p>第11回 遊びについて（理論）</p> <p>第12回 遊びについて（実践）</p> <p>第13回 食体験の計画</p> <p>第14回 食体験の実践</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	自然とのふれあいが減少し、人と人との関わりが疎遠化するなか、体験活動を重視した新しい教科である生活科が生まれた。生活科の指導には、地域に密着した自由な発想が求められている。本講義では、現代の子どもの実態を捉えながら、生活科の教育内容について学び、実際の生活科の授業案が作成できるようになることを目標とする。
テキスト	<p>テキスト名：家族生活の支援 ー理論と実践ー</p> <p>ISBNコード：978-4-7679-6518-5 出版社：日本家政学会家政教育部会編</p> <p>著者： 価格（税抜）：101円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	レポート（40％）・試験（40％）・授業態度（20％）
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室で受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	生活の教科目標は、「自立」です。生活自立、学習の自立、精神的自立を目指し、積極的に授業に参加しましょう。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書の指示した部分を読んでくること。 ・子どもの生活についてのニュースや新聞記事等に関心を持つこと。 ・課されたレポートを必ず提出すること。

講義科目名称：教育原理

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	必修
担当教員			
山口 匡			

テーマ	教育は人間だけが行なう営みである。教育の重要性と特殊性を知るために歴史的、哲学的及び教育思想的な視角から検討することで、教育の本質や目的について考える。これらをベースにしながら、現代の教育問題にも言及する。最終的には教職に必要な基礎知識を習得し、現実の教育問題について考察できる態度を養う。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー「教育原理」で学ぶ内容、教育学の領域</p> <p>第2回 教育とは何か①教育の本質（教育と教育学、人間の形成過程）及び可能性と限界</p> <p>第3回 教育とは何か②教育思想（教育思想の萌芽～近代教育思想）</p> <p>第4回 教育とは何か③教育科学にもとづく教育実践（学びのあり方と学力の多様・多面性）</p> <p>第5回 教育実践の歴史①学習理論と教育改革</p> <p>第6回 教育実践の歴史②新たな学習理論への取り組み（事例検討）</p> <p>第7回 子ども観の変遷①子ども観と教育の関係</p> <p>第8回 子ども観の変遷②童話にみる子ども観の変遷とその社会背景</p> <p>第9回 教育の歴史①教育の前史としての形態</p> <p>第10回 教育の歴史②教育の近代化とその仕組み</p> <p>第11回 教育の歴史③近代学校制度の特徴と課題</p> <p>第12回 外国の教育①オルタナティブ教育の理念</p> <p>第13回 外国の教育②サドベリーバレースクールの実践にみる教育の多様性</p> <p>第14回 日本におけるオルタナティブ教育の実情と課題</p> <p>第15回 教育「問題」にみる教育理念ー「問題」の検討</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	教育は、人間が人格の形成のために意識して行なうものである。人間は、家庭、地域社会など、多様な環境の中で成長していく。しかし、現代は教育混沌の時代といわれ、大人は大きな不安の中で人間形成に関わり、その中で子どもが育っているのが現状である。このような状況で、教育とは本来どのようなものであり、いかにあるべきかを問い直す必要があるだろう。そこで、本授業では、教育のあり方について考えるために、主に哲学・教育思想的、かつ歴史的な視角から理解を深め、適宜心理学、比較教育学などの学問の成果も取り入れる。授業方法は、講義形式を中心とし、時にグループワークを行なうこともある。
テキスト	特になし。毎回、テーマに沿ったレジュメを配布する。
参考文献	特になし。毎回配布するレジュメに、関連する書籍や論文等をあげる。
成績評価の基準・方法	学期末に行なう試験とレポート（授業外+授業中）により評価する。評価基準の目安は、以下のとおり。試験に対する評価50%、レポート（授業外、全体の授業の半分くらいの時期に提出）に対する評価35%、毎授業時に行なうレポートに対する評価15%。
質問・相談の受付方法	受付方法については授業内でお知らせします。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	授業への参加態度に注意してください。積極的な質問を希望します。
準備学習について	授業終了後に、次回の学習内容を指示する。

講義科目名称：発達心理学

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	必修
担当教員			
中道 圭人			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的なヒトの発達に関する理論や領域別のヒトの発達に関する知識を習得する。 ・子どもの発達を捉えるための心理学的な考え方・見方を習得する。 ・発達に関わる日常的なトピック（例：早期教育）についての自分なりの意見を持つ。
授業計画	<p>第1回 授業内容の説明・発達心理学を学ぶことの意義</p> <p>第2回 発達の概念</p> <p>第3回 身体の発達</p> <p>第4回 知覚（感覚）の発達</p> <p>第5回 認知の発達Ⅰ（記憶）</p> <p>第6回 認知の発達Ⅱ（思考）</p> <p>第7回 情動と欲求の発達</p> <p>第8回 言葉の発達</p> <p>第9回 親子関係</p> <p>第10回 遊びの発達</p> <p>第11回 社会性の発達</p> <p>第12回 道徳性の発達</p> <p>第13回 発達をつまづきと援助Ⅰ（発達障害）</p> <p>第14回 発達をつまづきと援助Ⅱ（不登校・登園しぶり、いじめ）</p> <p>第15回 授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	<p>発達心理学は、胎児期から老年期に至るまで、人間の生涯にわたる発達を探る学問である。本講義では、発達を説明する理論や原理といった基礎的な知識を教授していく。また、知覚・思考・言語・社会性などの個々の領域における発達についても解説していく。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「幼児・児童の発達心理学」</p> <p>ISBNコード：9784779505393</p> <p>出版社：ナカニシヤ出版</p> <p>著者：中道圭人・榎本淳子（編）</p> <p>価格（税抜）：2,400円</p>
参考文献	<p>無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦（編）「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房</p>
成績評価の基準・方法	<p>すべての授業に出席していることが前提です。</p> <p>その上で、授業でのミニツペーパー（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%：持ち込み不可）を用いた包括的評価。</p>
質問・相談の受付方法	<p>授業の前後であれば、直接受け付けます。</p>
履修条件	<p>子どもの発達について、真摯に学ぶ態度を持っていること。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<p>ヒトの発達を知ることは、教育に携わる者にとっての基本事項ですので、真摯な態度で学んでください。また、内容が多岐にわたりますので、授業後の復習は必ず行ってください。</p>
準備学習について	<p>授業終了時に、適宜、予習内容を指示する。内容を理解して、次回授業に臨むこと。</p>

講義科目名称：保育実践入門

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	1年	2	必修
担当教員			
山田美津子、橋爪千恵子、橋田重男、岡村由紀子、山下紗織			

テーマ	「保育」を理解するため、保育現場での実際の体験実習を通して、子どもの姿や保育者のかかわり方などについて具体的に学ぶ。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	保育現場のイメージ（個人）	
	第3回	保育現場のイメージ（グループワーク）	
	第4回	課題の説明（記録の書き方）	
	第5回	学外実習に向けたガイダンス（1）保育所	
	第6回	学外実習（保育所）①	
	第7回	学外実習（保育所）①	
	第8回	事後指導①	
	第9回	カンファレンス①	
	第10回	学外実習（保育所）②	
	第11回	学外実習（保育所）②	
	第12回	事後指導②	
	第13回	カンファレンス②	
	第14回	課題の振り返り	
	第15回	まとめ	
	第16回	学外実習に向けたガイダンス（2）幼稚園・施設	
	第17回	学外実習（幼稚園）③	
	第18回	学外実習（幼稚園）③	
	第19回	事後指導③	
	第20回	カンファレンス③	
	第21回	学外実習（幼稚園）④	
	第22回	学外実習（幼稚園）④	
	第23回	事後指導④	
	第24回	カンファレンス④	
	第25回	学外実習（施設）⑤	
	第26回	学外実習（施設）⑤	
	第27回	事後指導⑤	
	第28回	カンファレンス⑤	
	第29回	課題の振り返り	
	第30回	まとめ	

授業の概要と目的	1年次通年の科目である。「保育」を理解するための入門として保育の現場（幼稚園・保育所・児童福祉施設）で見学・観察を行い、幼稚園・保育所・児童福祉施設の役割やさまざまな子どもの姿、保育者の関わり方を学ぶ。学んだことを各自レポートし、グループ討議等を行う。回を重ねていく中で各自の視点や課題を見つけ、「保育」への理解を深める。
テキスト	特にありません。必要に応じて資料を配布します。
参考文献	特にありません。
成績評価の基準・方法	授業及び体験実習への参加状況、課題の提出状況から、総合的に評価します。
質問・相談の受付方法	担当教員のオフィスアワー等を利用してください。
履修条件	子ども学科の学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	保育現場を見せていただける貴重な機会です。体調管理をして、元気に楽しく学びましょう。
準備学習について	現場での実習が主の授業ですので、体調管理に気をつけてください。 また、実習後に課されるレポートは、実習後なるべく早くにまとめて、期日までに必ず提出するようにしましょう。

講義科目名称：音楽Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	1年	2	必修
担当教員			
丸尾真紀子、二木秀幸、鷺巣貴乃、高久新吾、藤本真理子、漆畑江里、松下のぞみ、田代千早			

テーマ	歌唱とピアノの基礎を学ぶ。
授業計画	第1回 オリエンテーション (担当教員の決定)
	第2回 歌唱 (担当：二木) 季節のうた「春」を歌う ピアノ実技レッスン：ハ長調と指のポジション、弾き歌い① (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第3回 歌唱 (担当：二木) 発声練習・ヴォイストレーニングについて ピアノ実技レッスン：ハ長調の和音、弾き歌い② (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第4回 歌唱 (担当：二木) 「姿勢」の理論 ピアノ実技レッスン：テンポとアーティキュレーション、弾き歌い③ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第5回 歌唱 (担当：二木) 「姿勢」に関するトレーニング方法 ピアノ実技レッスン：ヘ長調と指のポジション、弾き歌い④ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第6回 歌唱 (担当：二木) 「呼吸法」の理論 ピアノ実技レッスン：ヘ長調の和音、弾き歌い⑤ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第7回 歌唱 (担当：二木) 「呼吸法」に関するトレーニング方法 ピアノ実技レッスン：ヘ長調の曲、弾き歌い⑥ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第8回 歌唱 (担当：二木) 「発声法」の理論 ピアノ実技レッスン：ト長調と指のポジション、弾き歌い⑦ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第9回 歌唱 (担当：二木) 「発声法」に関するトレーニング方法 ピアノ実技レッスン：ト長調の和音、弾き歌い⑧ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第10回 歌唱 (担当：二木) 「発音法」の理論 ピアノ実技レッスン：ト長調の曲、弾き歌い⑨ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第11回 歌唱 (担当：二木) 「発音法」に関するトレーニング方法 ピアノ実技レッスン：強弱について、弾き歌い⑩ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第12回 歌唱 (担当：二木) 「グルーブ感」の理論 ピアノ実技レッスン：低音部記号の音名、弾き歌い⑪ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第13回 歌唱 (担当：二木) 「グルーブ感」に関するトレーニング方法 ピアノ実技レッスン：弱起の曲、弾き歌い⑫ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第14回 歌唱 (担当：二木) ヴォイストレーニングを歌唱につなげる ピアノ実技レッスン：高音部記号の音名、弾き歌い⑬ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第15回 歌唱 (担当：二木) 季節のうた「夏」を歌う ピアノ実技レッスン：和音と音階、弾き歌い⑭ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代) *中間発表会も予定しています。
	第16回 歌唱 (担当：二木) “自然な声”で歌うには ピアノ実技レッスン：ポジション移動、弾き歌い⑮ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第17回 歌唱 (担当：二木) 季節のうた「秋」を歌う ピアノ実技レッスン：変化記号、弾き歌い⑯ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第18回 歌唱 (担当：二木) 音程に気を付けた歌唱 ピアノ実技レッスン：アクセントとポジション移動、弾き歌い⑰ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第19回 歌唱 (担当：二木) 正しい音程をとるトレーニング ピアノ実技レッスン：付点のリズム、弾き歌い⑱ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第20回 歌唱 (担当：二木) 正しい音程の習得 ピアノ実技レッスン：フェルマータのある曲、弾き歌い⑲ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第21回 歌唱 (担当：二木) リズムに気を付けた歌唱 ピアノ実技レッスン：ダンパーペダルの説明、弾き歌い⑳ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)
	第22回 歌唱 (担当：二木) 正しいリズムをとるトレーニング ピアノ実技レッスン：ダンパーペダルを使う曲、弾き歌い㉑ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)

授業計画	<p>第23回 歌唱(担当:二木)正しいリズムの習得 ピアノ実技レッスン:練習曲、弾き歌い②(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第24回 歌唱(担当:二木)季節のうた「冬」を歌う ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット①(音階練習・片手→両手)、弾き歌い③(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第25回 歌唱(担当:二木)遊びのうたを歌う ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット②(音階練習・両手)、弾き歌い④(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第26回 歌唱(担当:二木)生活のうたを歌う ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット③(音階練習・仕上げ)、弾き歌い⑤(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第27回 歌唱(担当:二木)集いのうたを歌う ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット④(イ長調・片手→両手)、弾き歌い⑥(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第28回 歌唱(担当:二木)合唱・小アンサンブル ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット⑤(イ長調・両手)、弾き歌い⑦(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第29回 歌唱(担当:二木)歌唱表現を考える ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット⑥(イ長調・仕上げ)、弾き歌い⑧(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第30回 歌唱(担当:二木)小さな発表会 ピアノ実技レッスン:ピアノのアルファベット⑦(タイについて・片手→両手)、弾き歌い⑨(担当:丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>※第30回終了後、定期試験:実技試験</p>
授業の概要と目的	<p>(概要) クラスを2グループに分け、歌唱(グループ)とピアノ(個人)のレッスンを並行して行う。歌唱は音程やリズム等の音楽の基礎訓練及び発声法を学び、子どもの歌(手遊び歌・絵描き歌等を含む)を学習する。ピアノは練習曲、弾き歌いを学ぶ。</p> <p>(目的) 歌唱とピアノの基礎技術の習得。</p>
テキスト	<p>テキスト名:ポケットいっぱい ISBN:978-4-87788-485-7 出版社:教育芸術社 著者:鈴木恵津子、富田英也 価格(税抜):2,000円</p> <p>テキスト名:こどものうた100 ISBN:978-4-8054-8186-8 出版社:チャイルド本社 著者:小林美実・監修 井戸和秀・編 価格(税抜):1,600円</p> <p>テキスト名:バスティン・ピアノレッスン レベルⅠ (バイエルを修了している学生は不要) ISBN:978-0-8497-5044-1 著者:ジェームズ バスティン・著 日本バスティン研究会・訳 出版社:東音企画 価格(税抜):1,000円</p> <p>テキスト名:バスティン・ピアノレッスン レベルⅡ ISBN:0-8497-5045-8 著者:ジェームズ バスティン・著 日本バスティン研究会・訳 出版社:東音企画 価格(税抜):1,000円</p> <p>テキスト名:ピアノのアルファベット ISBN:978-4-11-136010-9 出版社:全音楽譜出版社 著者:ル クーペ 価格(税抜):800円</p>
参考文献	こどものうた200、続こどものうた200、ほか適宜紹介。
成績評価の基準・方法	授業への参加態度と実技試験により評価する。 欠席3回以上の学生は減点の対象とする。
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。
履修条件	他学科生は履修しないこと。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<p>*毎日少しでも練習するよう心がけて下さい。</p> <p>*歌唱とピアノの両方で1科目です。</p> <p>*歌唱:音楽的基礎力を身につける為、リズムや音程のトレーニングを子どもの歌を教材に行う。また歌唱の際に必要な“自然な声”を出す為のヴォイストレーニングも行う。</p> <p>*ピアノ:進度に応じた個人レッスン。練習曲と弾き歌いが基本の教材となる。弾き歌いは、初級者:3曲以上、中級者:5曲以上、上級者:6曲以上マスターを目標とする。</p>
準備学習について	<p>*レッスンを受ける曲は必ず練習してきてください。何も練習しなかった学生は授業を受ける資格がありません。</p> <p>*楽譜を忘れないこと。</p>

講義科目名称：造形表現 I

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	1年	2	必修
担当教員			
八木 朋美			

テーマ	子どもと造形表現（基礎）
授業計画	第1回 インTRODクシヨN 造形の基礎理論
	第2回 「好み」からの出発
	第3回 「好み」の造形型分析
	第4回 初めての出会い分析
	第5回 自己紹介ツールの分析
	第6回 初めての出会いの造形表現1 アイデア発想
	第7回 初めての出会いの造形表現2 作品制作
	第8回 抽象的表現演習1分析 動物をベースに
	第9回 抽象的表現演習2表現 アイデア発想
	第10回 抽象的表現演習3表現 作品制作
	第11回 具象的表現演習1分析 絵本をベースに
	第12回 具象的表現演習2表現 アイデア発想
	第13回 具象的表現演習3表現 構成
	第14回 具象的表現演習3表現 作品制作
	第15回 作品発表1 周囲からの学び
	第16回 見立ての手法演習1 具象物（動物）からの展開
	第17回 見立ての手法演習2 アイデア発想
	第18回 見立ての手法演習3 作品制作
	第19回 見立ての手法演習4 表現の展開
	第20回 壁面装飾の表現演習 季節・行事をベースに
	第21回 壁面装飾の表現演習 アイデア発想
	第22回 壁面装飾の表現演習 構成
	第23回 壁面装飾の表現演習 作品制作
	第24回 見立ての手法演習1 ブルーノ・ムナーリの手法説明
	第25回 見立ての手法演習2 抽象的造形物からの展開
	第26回 見立ての手法演習3 アイデア発想
	第27回 見立ての手法演習4 作品制作
	第28回 アイデアの具象化演習1 具象化手段の考察
	第29回 アイデアの具象化演習2 具象化
	第30回 作品発表2 周囲からの学び 授業振り返り 制作状況に応じ、授業計画は若干変更することがあります。
	定期試験……あらかじめ出題した課題について造形表現を行う。

授業の概要と目的	基本的な造形表現技法を身につけると同時に、子どもたちに豊かな感性を開く多様な創造方法を演習する。標準的な手法と同時に個性的表現も身につける。 また、遊びの中の創造的手法によって、学びを取り入れ、幼児環境をより豊かに意味のあるものとして総合的に工夫する力を身につける。さらに多様な身の回りの環境から有効的な発想ができる力をつける。
テキスト	指定なし（必要に応じてプリント資料等を配布）
参考文献	藤田復生 著書『造形』『紙あそび』
成績評価の基準・方法	到達目標がどの程度達成されているかを、授業態度・制作姿勢(30%)、提出作品(70%)、によって総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	授業中または授業終了後
履修条件	特記事項なし。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	保育について自ら考え創造していく発想力を身につけてほしい。身の回りの環境から発想を得る技術を培っていきましょう。
準備学習について	課題に必要な資料を収集して持参したり、各自で準備すべき素材等が必要になる場合があります。また、課題は指定された期限内に提出できるように進めましょう。

講義科目名称：子どもと運動 I

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	1	必修
担当教員			
齋藤 剛			

テーマ	子どもの発達状況に応じた運動遊びの提供ができるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス；今後の授業の流れについて</p> <p>第2回 幼児期の運動の意義；幼児期運動指針を参考にした運動の意義についての議論</p> <p>第3回 子どもの体力測定・評価；簡便かつ正確に測定できる測定方法について</p> <p>第4回 遊びの中でのウォーミングアップ；遊びながらできる準備運動について</p> <p>第5回 運動遊びの実践1；ボールを使った様々なアクティビティの実践</p> <p>第6回 運動遊びの実践2；フープを使った様々なアクティビティの実践</p> <p>第7回 運動遊びの実践3；なわを使った様々なアクティビティの実践</p> <p>第8回 運動遊びの実践4；マット遊びの実践</p> <p>第9回 運動遊びの実践5；平均台・跳び箱あそびの実践</p> <p>第10回 運動遊びの実践6；身近なものを使った遊び（紙）</p> <p>第11回 運動遊びの実践7；身近なものを使った遊び（ダンボール）</p> <p>第12回 運動遊びの実践8；水遊び</p> <p>第13回 身体的不器用さを持った幼児への対応</p> <p>第14回 安全を考慮した環境整備と応急手当</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	子どもの豊かな運動経験は、生涯にわたる心身の健康、社会適応力などの基礎を作るために極めて重要である。そのために、保育者は子どもの年齢ごとの発達状況を理解し、それに応じた多様な動きを含む運動遊びを提供することが求められる。本授業では、幼児期における運動の意義を確認し、さまざまな運動遊びを習得することを目的とする。
テキスト	授業中に必要な資料を適宜配布する。
参考文献	日本幼児体育学会 編「幼児体育」大学教育出版
成績評価の基準・方法	授業態度30%、レポート等70%で評価する。
質問・相談の受付方法	月曜日以外に305研究室に直接来て頂くか、tsaito@suw.ac.jpまでメールを送ってください。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	意欲的、積極的学習をしてください。
準備学習について	事前に授業で行うアクティビティについて確認してください。

講義科目名称：保育内容(言葉Ⅰ)

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	1	必修
担当教員			
山下 紗織			

テーマ	子どものことばの育ちとそれを支える環境（保育者、児童文化財等）について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 領域「言葉」のねらい・内容（「養護」と「教育」の関連性）</p> <p>第3回 ことばの育ち（1）0～2歳</p> <p>第4回 ことばの育ち（2）3～4歳</p> <p>第5回 ことばの育ち（3）5～6歳</p> <p>第6回 保育の中のことば（1）ことばになる前の体験や思い</p> <p>第7回 保育の中のことば（2）自分の気持ちを表すことば</p> <p>第8回 保育の中のことば（3）文字とことば</p> <p>第9回 保育の中のことば（4）ごっこ遊びとことば</p> <p>第10回 保育と児童文化財（1）絵本・紙芝居の教材研究</p> <p>第11回 保育と児童文化財（2） パネルシアター・エプロンシアター・ペープサートの教材研究</p> <p>第12回 ことばの育ちを支える／指導する保育者の在り方（1）子どもとの「信頼関係」</p> <p>第13回 ことばの育ちを支える／指導する保育者の在り方（2）ことばを生み出す体験</p> <p>第14回 ことばの育ちを支える／指導する保育者の在り方（3）環境構成</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	<p>乳幼児期のことばの育ちと、幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい・内容について理解する。また、様々な事例を用い、子どものことばの育ちを支える／指導する保育者の在り方・子ども同士のかかわり・環境構成などについて具体的に学び、児童文化財に親しむことを目的とする。</p> <p>※毎回授業の後にコメントシートを提出していただきます。</p>
テキスト	<p>テキスト名：幼稚園教育要領 ISBNコード：978-4-577-81240-2 出版社：フレーベル館 著者：文部科学省告示 価格（税抜）：100円</p> <p>テキスト名：保育所保育指針 ISBNコード：978-4-577-81241-9 出版社：フレーベル館 著者：厚生労働省告示 価格（税抜）：120円</p>
参考文献	<p>無藤 隆(監)・高濱裕子(編)、2007、『事例で学ぶ保育内容<領域>言葉』萌文書林 その他、講義の中で適宜紹介・配布します。</p>
成績評価の基準・方法	<p>授業中の発言、毎回のコメントシート、学期末のレポートにより、総合的に評価する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーを利用してください。また、毎回のコメントシートに何でも記入していただいてもかまいません。</p>
履修条件	<p>特に設けません。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
メッセージ	<p>普段の生活の中で出会った子どもの言葉に耳を傾け、たくさんの児童文化財に触れてみてください。</p>
準備学習について	<p>前半は、前回の授業内容を思い出して授業に臨んでいただければと思います。 後半は、みなさんに事例を集めてきていただくので、その準備をしてきてください。</p>

講義科目名称：保育内容(表現Ⅰ)

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	1	必修
担当教員			
二木 秀幸			

テーマ	「あそびを通じた表現」をテーマとし、表現の研究を軸に、子どもの表現の育ちと保育者の役割について主体的に考え、子どもの表現活動に対する指導方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業内容とポイントの解説・“あそび” “表現”を考える</p> <p>第2回 子どものうた(1) いろいろな歌をうたう・手あそび・歌あそび</p> <p>第3回 子どものうた(2) 保育における歌を考える・子どもへの歌の指導法について</p> <p>第4回 子どものうた(3) まとめ</p> <p>第5回 器楽(1) 楽器であそぶ</p> <p>第6回 器楽(2) 保育における器楽の指導法について</p> <p>第7回 器楽(3) まとめ</p> <p>第8回 身体的表現(1) ボディー及びヴォイスパーカッション・体を使った表現の指導法</p> <p>第9回 身体的表現(2) 創作ダンス</p> <p>第10回 身体的表現(3) まとめ</p> <p>第11回 様々な素材を使った表現(1) “詩”を素材としてあそぶ</p> <p>第12回 様々な素材を使った表現(2) “詩”を題材とした教材研究・作品づくりの実践</p> <p>第13回 様々な素材を使った表現(3) “絵本”を素材としてあそぶ</p> <p>第14回 様々な素材を使った表現(4) “絵本”を題材とした教材研究・作品づくりの実践</p> <p>第15回 “あそび”を通じた“表現”の指導方法のまとめ</p>
授業の概要と目的	子どもの発達を考えながら、保育に関わる音楽表現活動全般を取り上げる。あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ、体験する。そしてそれらを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を演習する。
テキスト	<p>①テキスト名：5訂版 歌はともだち JANコード： 出版社：教育芸術社 著者： 価格（税抜）：362円</p> <p>②他、授業で指示する</p>
参考文献	授業で紹介する。
成績評価の基準・方法	授業態度、レポート、発表・表現等による総合評価。
質問・相談の受付方法	授業終了後もしくは、オフィスアワー。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動しやすい服と靴で受講すること(必須)。 ・グループ発表において、授業時間外に準備や練習等が必要になることがあります。
準備学習について	日常生活において様々な表現活動(音楽・演劇・ダンス・ミュージカル等々)にふれる機会を持つようになしてください。

講義科目名称：児童文化

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
桑原 公美子			

テーマ	子どもと文化と社会
授業計画	<p>第1回 児童文化とは何か（ガイダンス）</p> <p>第2回 現在の社会と子ども①【ボーダレス社会と子ども】</p> <p>第3回 現在の社会と子ども②【少子化社会と子ども】</p> <p>第4回 現在の社会と子ども③【ネット社会と子ども】</p> <p>第5回 日本の年中行事と保育①【春（3・4・5月）の年中行事・記念日】</p> <p>第6回 児童文化と子どもの遊び①【子どもとおもちゃ】</p> <p>第7回 児童文化と子どもの遊び②【子どもと電子ゲーム】</p> <p>第8回 児童文化と子どもの遊び③【現在の子どもの遊びに関する課題】</p> <p>第9回 日本の年中行事と保育②【夏（6・7・8月）の年中行事・記念日】</p> <p>第10回 児童文化と児童文学①【映像化された児童文学】</p> <p>第11回 児童文化と児童文学②【原作と映像の比較】</p> <p>第12回 日本の年中行事と保育③【秋（9・10・11月）の年中行事・記念日】</p> <p>第13回 子どもと児童文化【子どもにとって児童文化とは】</p> <p>第14回 日本の年中行事と保育④【冬（12・1・2月）の年中行事・記念日】</p> <p>第15回 保育における児童文化（まとめ）</p>
授業の概要と目的	<p>本科目では、「文化」という視点から子どもの存在を問い直し、急激な社会的変化の影響を受けている現在の子どもの世界を理解することを目的とする。そして、子どもと文化の現状に対する自らの考えを構築すると共に、グループ討議とレポート作成をとおして多角的な視点と多様な価値観から、子どもの文化に対する理解を深める。その理解確認として、毎回授業最後に小レポートを作成し、提出してもらう。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	授業中の発言による積極性などの受講態度、および毎回の小レポートによって評価する。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室または講師控室で受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	<p>子どもは、大人と同じ社会・文化の中に生きています。子どもは、その社会・文化をどのように見て、聞いて、感じているのでしょうか。隔離された「子どもの世界」ではなく、大人と同じ「今」を生きる子ども目線から、子どもを取り巻く世界・文化を捉えてみてください。</p>
準備学習について	授業前までに、その授業内容に関するニュース・情報を集め、自らの考えをまとめておくこと。

講義科目名称：子どもと言葉

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	必修
担当教員			
久島 茂			

テーマ	幼児期は言葉を獲得する重要な時期である。この観点から子どもと言葉の関わりを理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 幼児の言葉の発達</p> <p>第2回 乳幼児の音声知覚</p> <p>第3回 対乳児の音声</p> <p>第4回 子守歌と遊び歌</p> <p>第5回 象徴機能、見立て</p> <p>第6回 急速な語彙獲得の謎</p> <p>第7回 事物全体制約、類制約、相互排他制約</p> <p>第8回 幼児語（オノマトペ等）</p> <p>第9回 言葉が作るカテゴリー</p> <p>第10回 幼児の数の理解</p> <p>第11回 言葉遊び（尻取り、新しいろは歌）</p> <p>第12回 言葉遊び（アナグラム、回文）</p> <p>第13回 一次的言葉と二次的言葉（話し言葉と書きことば、外言と内言）</p> <p>第14回 言語的記憶と非言語的記憶</p> <p>第15回 言語発達の遅れ</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	幼児が言葉をどのように獲得し、使用するようになるのか、保育者はどのような事に注意すべきか、最新の知見も含めて概説する。
テキスト	<p>テキスト名：NHKすくすく子育て育児ビギナーズブック5「ことばの育み方」</p> <p>ISBNコード：978-4-14-011296-0</p> <p>出版社：NHK出版</p> <p>著者：中川信子</p> <p>価格（税抜）780円</p>
参考文献	授業時に指示する。
成績評価の基準・方法	授業時の発言、課題提出、試験の結果を総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	講義終了後、質問や相談に応じる。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	なし。
準備学習について	前回授業の内容を復習しておくこと。

講義科目名称：教育・保育課程論

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	2年	4	必修
担当教員			
菱田 隆昭			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・保育課程の基本的事項を学び、その意義や必要性を理解する ・教育課程・保育課程を編成する基本的能力を培い、保育現場に欠かせない指導計画作成の手順や方法を身に付ける ・グループ等で長期指導計画、短期指導計画等を作成し、模擬保育を試行することで、子どもの今とこれからを見通す力を身に付ける
授業計画	<p>第1回 前半のオリエンテーション</p> <p>第2回 教育課程・保育課程の基本（意義と必要性）</p> <p>第3回 教育課程・保育課程の基本（カリキュラムの種類・特徴）</p> <p>第4回 法的基準と幼稚園教育要領・保育所保育指針</p> <p>第5回 教育課程・保育課程の歴史（戦前・戦後の保育の計画）</p> <p>第6回 教育課程・保育課程の歴史（平成期の保育の計画）</p> <p>第7回 子どもの発達と教育課程</p> <p>第8回 環境構成と教育課程</p> <p>第9回 外国の教育課程</p> <p>第10回 教育課程の編成の手順</p> <p>第11回 教育課程・保育課程と指導計画</p> <p>第12回 教育課程・保育課程と評価</p> <p>第13回 年間指導計画の解説</p> <p>第14回 指導計年間画の試作と検討</p> <p>第15回 前半のまとめ</p> <p>第16回 後半のオリエンテーション</p> <p>第17回 月案(月間指導計画)解説</p> <p>第18回 月案(月間指導計画)試作</p> <p>第19回 週案(週間指導計画)解説</p> <p>第20回 週案(週間指導計画)試作</p> <p>第21回 日案(1日指導計画)解説</p> <p>第22回 日案(1日指導計画)試作</p> <p>第23回 日案(1日指導計画)検討</p> <p>第24回 時案(部分指導計画)解説</p> <p>第25回 時案(部分指導計画)試作</p> <p>第26回 時案(部分指導計画)検討</p> <p>第27回 模擬保育試行(Aグループ)</p> <p>第28回 模擬保育試行(Bグループ)</p> <p>第29回 模擬保育試行(Cグループ)</p> <p>第30回 模擬保育の検討とまとめ</p> <p>定期試験</p>

授業の概要と目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程・保育課程の内容と意義の理解。 2. 指導計画の基本理解と編成の手順・方法の習得。 3. 長期指導計画、短期指導計画等の作成と模擬保育の試行。
テキスト	<p>テキスト名：『乳幼児の教育保育課程論』 ISBNコード：978-4-7679-3264-4 出版社：建帛社 平成22年 著者：北野幸子編 価格（税抜）：1,900円</p>
参考文献	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』、授業中に適宜資料を配布する。 また、適宜資料を配布する。
成績評価の基準・方法	試験60%、授業時指定の課題30%、授業への積極的な参加態度10%を総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室で受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	—
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で授業に臨むこと。 ・授業終了後に次回の予習内容を指示するので、予習の上授業に臨むこと。

講義科目名称：教職・保育者論

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	必修
担当教員			
橋爪 千恵子			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭の役割と職務内容（研修、サービス及び身分保障等）について理解する。 ・ 幼稚園教諭の専門性について考察し、理解する。 ・ 幼稚園教諭の協働や専門職的成長について理解する。
授業計画	<p>第1回 教職・保育者の役割—幼稚園教諭の意義及び役割</p> <p>第2回 教職・保育者の制度的位置づけと職務内容—研修・サービスおよび身分保障等</p> <p>第3回 幼稚園教諭の具体的な仕事の流れ</p> <p>第4回 子どもの理解—子どもの思いや成長の理解</p> <p>第5回 幼稚園における幼稚園教諭の仕事—各年齢に即した役割と仕事</p> <p>第6回 幼稚園教諭に必要な資質や能力</p> <p>第7回 幼稚園教諭に必要な知識や技術</p> <p>第8回 教職者に必要な教材研究</p> <p>第9回 幼稚園における保育実践の省察</p> <p>第10回 幼稚園の保護者への子育て支援—個人面談、保護者同士の連携の援助</p> <p>第11回 幼稚園における地域社会との協働</p> <p>第12回 専門職同士、専門機関との連携</p> <p>第13回 教職・保育者の専門職的成長①—園内外の研修</p> <p>第14回 教職・保育者の専門職的成長②—専門性の探究</p> <p>第15回 教職・保育者の専門性の向上一個人の研修と園全体の研修の積み上げ</p>
授業の概要と目的	幼稚園教諭の役割、本質や専門性及び職務内容について学ぶ。幼稚園教諭に必要な知識や技術を理解し、具体的に実践できるように事例等を考察しながら考えを深める。他の専門職との協働、地域社会との連携ならびに教職・保育者の専門職的成長（研修等を含む）について理解する。
テキスト	<p>テキスト名：『最新保育講座 保育者論』</p> <p>ISBNコード：978-4-623-05688-0</p> <p>出版社：ミネルヴァ書房</p> <p>著者：汐見稔幸 編</p> <p>価格（税抜）：</p>
参考文献	「幼稚園教育要領」
成績評価の基準・方法	定期試験80% 受講状況（受講態度、小レポート）20%
質問・相談の受付方法	講義中および講義終了後 研究室在室中は随時
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	今日、社会から保育者に求められる内容は、広くて重要な意味を持つ。子どもや保護者を見守り支援できる保育者をめざしてほしい。
準備学習について	その日の授業を復習して、幼稚園教諭と保育士の役割や専門性について理解を深めていきましょう。

講義科目名称：教育心理学

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
藤本 昌樹			

テーマ	児童の心理的な発達を理解するとともに、その行動の意味を自ら考え、教育指導が行えるように教育心理学的視点を活用することができる教師を目指すことを目標とする。そのために、適切な理解と評価の視点を身に付けて行く。
授業計画	<p>第1回 教育心理学とは何か：今、教師に求められる姿とは？</p> <p>第2回 教育心理学の歴史：教育心理学と関連が深い心理学者など</p> <p>第3回 子どもの発達について：発達の原理と初期発達</p> <p>第4回 児童の発達を考える：子どもの発達課題、子どもの遊びの意味など</p> <p>第5回 やる気はどこからくるか？：外発的動機付けと内発的動機付けについてなど</p> <p>第6回 無気力な子どもを考える：学習性無力感、無気力を理解し対応する</p> <p>第7回 出来る子どもは何故出来る？：知能、自己効力感、有能感など</p> <p>第8回 記憶について考える：記憶のメカニズム、なぜ人は忘れるのか？</p> <p>第9回 学習について：心理学における学習、学習の基本理論</p> <p>第10回 正当な評価をするには？：評価について考える</p> <p>第11回 子どもの問題行動の意味：子どもの心理的側面から問題行動を理解する</p> <p>第12回 パーソナリティの理論：遺伝か環境か？、行動遺伝学、パーソナリティ検査</p> <p>第13回 障がい児の心理：障害の考え方・とらえ方（ICIDH/ ICF）／発達障がい等</p> <p>第14回 学級集団の特徴：学級集団の形成と特徴、ハロー効果など</p> <p>第15回 総括：まとめ</p>
授業の概要と目的	教育現場において、効果的教育活動を行うために心理学で得られた知見を活用していくため、教育心理学の知識を学び、様々な教育場面への応用を考えていけるようにする。具体的には、児童生徒のパーソナリティや心身発達、学習における記憶や動機付け、無気力の問題、発達障害などを扱っていく。
テキスト	<p>書名：教育心理学ルックアラウンド～わかりたいあなたのための教育心理学～</p> <p>著者名：山崎史郎</p> <p>出版社：おうふう</p> <p>ISBN：9784273035891</p> <p>価格（税抜）：1,900円</p>
参考文献	教育心理学エチュード 糸井尚子（編著）川島書店
成績評価の基準・方法	単位認定60点以上：授業態度や、授業中に行うリアクションペーパーの結果から総合評価を行う。
質問・相談の受付方法	受講レポートに記入する。
履修条件	—
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	—
準備学習について	授業後にはレポートを提出すること。

講義科目名称：乳幼児心理学

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	2	選択
担当教員			
徳山 美知代			

テーマ	乳幼児期の発達の特徴について学習する。
授業計画	<p>第1回 乳幼児心理学とは</p> <p>第2回 赤ちゃんのころに向き合う</p> <p>第3回 命が芽生える時</p> <p>第4回 赤ちゃんが世界をとらえる力</p> <p>第5回 赤ちゃんの運動機能と精神機能</p> <p>第6回 人との関係の中で育つ子ども (1) アタッチメントの基本的性質</p> <p>第7回 人との関係の中で育つ子ども (2) アタッチメントの個人差と生涯発達</p> <p>第8回 知的能力と学び</p> <p>第9回 遊びの発達と学び</p> <p>第10回 言葉と会話の発達</p> <p>第11回 自己と感情</p> <p>第12回 社会的世界の広がりところの理解</p> <p>第13回 メディアとおもちゃ</p> <p>第14回 発達臨床心理的援助の基礎</p> <p>第15回 乳幼児虐待とネグレクト</p>
授業の概要と目的	乳幼児は、誕生直後から彼らを取り巻く現実に向かい、人とのやり取りや遊びを通して、他律から自律へと歩み続けていく。また、彼らは、生活の営みを通して内面世界を作り上げ、認知や言語、社会性の急速な発達を遂げる。本講義では、乳幼児期の発達過程・発達領域について学習し、子育ての実践に活かせることを目指す。
テキスト	<p>テキスト名：乳幼児のころ——子育て・子育ての発達心理学——</p> <p>ISBNコード：978-4641124295</p> <p>出版社：有斐閣アルマ</p> <p>著者名：遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子</p> <p>価格（税抜）：2,100円</p>
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法	期末レポート（70%）、小レポート（30%）によって総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。その他、オフィスアワー（後日掲示）を利用してください。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	なし
準備学習について	基本的に次回の内容について、テキストを読んてくることを準備学習とする。その他、適宜、授業中に準備学習を提示する。

講義科目名称：子どもと運動Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	1	必修
担当教員			
齋藤 剛			

テーマ	子どもを対象とした運動遊びや種々のアクティビティを効果的に組み込んだ計画をたて実施できるようにする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス；今後の授業の流れについて</p> <p>第2回 運動遊びの実践1；さまざまな運動遊びの概要を知る。</p> <p>第3回 運動遊びの実践2；グループワークを通じた運動遊びの企画</p> <p>第4回 運動遊びの実践3；運動遊び企画についてプレゼンテーション</p> <p>第5回 運動遊びの実践4；グループごとに運動遊びの企画を実施する</p> <p>第6回 運動遊びの実践5；運動遊びの実施内容について振り返り</p> <p>第7回 運動会種目の実践1；保育現場における運動会の現状と課題について</p> <p>第8回 運動会種目の実践2；グループワークを通じた運動会の企画</p> <p>第9回 運動会種目の実践3；運動会企画についてプレゼンテーション</p> <p>第10回 運動会種目の実践4；グループごとに運動会企画を実施する</p> <p>第11回 運動会種目の実践5；運動会企画の実施内容について振り返り</p> <p>第11回 ネイチャーゲームの実践1；ネイチャーゲームについて</p> <p>第12回 ネイチャーゲームの実践2；グループワークを通じたネイチャーゲームの企画</p> <p>第13回 ネイチャーゲームの実践3；グループごとにネイチャーゲーム企画を実施する</p> <p>第14回 ネイチャーゲームの実践4；ネイチャーゲームの実施内容について振り返り</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	多様な動きを含む運動遊びやアクティビティについて、グループワークを通じて教材研究し、実施する中でより効果的な運動遊びやアクティビティの実践方法を身につける。それらのプロセスを通じて、計画の立て方、指導方法、環境設置などを習得する。具体的には、様々な運動遊びやアクティビティを組み合わせ、安全でかつ多様な動きを含み、参加者同士の相互作用があるようなオリジナルの実施計画を立て、行う。
テキスト	授業中に必要な資料を適宜配布する。
参考文献	日本幼児体育学会 編『幼児体育』大学教育出版
成績評価の基準・方法	授業態度20%、課題発表30%、レポート50%で評価する。
質問・相談の受付方法	月曜日以外に305研究室に直接来て頂くか、tsaito@suw.ac.jpまでメールを送ってください。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	意欲的、積極的学習をしてください。
準備学習について	グループごとに運動遊びやアクティビティについて企画、実施してもらう予定ですので、事前にしっかりと計画を立ててください。

講義科目名称：音楽Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	2年	2	必修
担当教員			
丸尾真紀子、二木秀幸、鷺巣貴乃、高久新吾、藤本真理子、漆畑江里、松下のぞみ、田代千早			

テーマ	<p>【到達目標】音楽Ⅰで学んだ事を定着させ、より確かな読譜力や表現力を身につける。</p> <p>【テーマ】 歌唱とピアノの基礎を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (担当教員の決定)</p> <p>第2回 歌唱 (担当：二木) いろいろな「春のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：練習曲① (タイについて・両手/半音と全音、音階の準備練習)、弾き歌い① (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第3回 歌唱 (担当：二木) 「春のうた」を使用した音程のトレーニング ピアノ実技レッスン：練習曲② (タイについて・仕上げ/音階でできているメロディ、ハ長調のスケール・エチュード)、弾き歌い② (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第4回 歌唱 (担当：二木) 「春のうた」を使用したリズムのトレーニング ピアノ実技レッスン：練習曲③ (和音の伴奏・片手→両手/音程の練習、メロディ①～③)、弾き歌い③ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第5回 歌唱 (担当：二木) 表現を考えながら「春のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：練習曲④ (和音の伴奏・両手/ハ長調の主和音と属七の和音、親指の移動)、弾き歌い④ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第6回 歌唱 (担当：二木) ヴォイストレーニングの習得「姿勢」 ピアノ実技レッスン：練習曲⑤ (和音の伴奏・仕上げ/ハ長調の下属和音、主要三和音)、弾き歌い⑤ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第7回 歌唱 (担当：二木) ヴォイストレーニングの習得「呼吸法」 ピアノ実技レッスン：小品① (読譜)、弾き歌い⑥ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第8回 歌唱 (担当：二木) ヴォイストレーニングの習得「発声法」 ピアノ実技レッスン：小品② (片手→両手)、弾き歌い⑦ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第9回 歌唱 (担当：二木) ヴォイストレーニングの習得「発音法」 ピアノ実技レッスン：小品③ (仕上げ)、弾き歌い⑧ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第10回 歌唱 (担当：二木) いろいろな「夏のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：練習曲⑥ (ブルー・片手→両手/指の拡張、ト長調の主要三和音)、弾き歌い⑨ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第11回 歌唱 (担当：二木) 「夏のうた」を使用した音程のトレーニング ピアノ実技レッスン：練習曲⑦ (ブルー・両手/ト長調のスケール・エチュード、加線)、弾き歌い⑩ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第12回 歌唱 (担当：二木) 「夏のうた」を使用したリズムのトレーニング ピアノ実技レッスン：練習曲⑧ (ブルー・仕上げ/8分の6拍子)、弾き歌い⑪ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第13回 歌唱 (担当：二木) 表現を考えながら「夏のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：小品④ (読譜)、弾き歌い⑫ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第14回 歌唱 (担当：二木) 小さな発表会の準備 ピアノ実技レッスン：小品⑤ (片手→両手)、弾き歌い⑬ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第15回 歌唱 (担当：二木) 小さな発表会・鑑賞 ピアノ実技レッスン：小品⑥ (仕上げ)、弾き歌い⑭ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代) *中間発表会も予定しています。</p> <p>第16回 歌唱 (担当：二木) いろいろな「秋のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：練習曲⑨ (16分音符・片手→両手/ハ長調の音階とスケール・エチュード)、弾き歌い⑮ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第17回 歌唱 (担当：二木) 「秋のうた」を使用した音程のトレーニング ピアノ実技レッスン：練習曲⑩ (16分音符・両手/装飾音、調号)、弾き歌い⑯ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第18回 歌唱 (担当：二木) 「秋のうた」を使用したリズムのトレーニング ピアノ実技レッスン：練習曲⑪ (16分音符・仕上げ/ニ長調とイ長調)、弾き歌い⑰ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第19回 歌唱 (担当：二木) 表現を考えながら「秋のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：小品⑦ (読譜)、弾き歌い⑱ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p> <p>第20回 歌唱 (担当：二木) 子どもに対する発声指導 ピアノ実技レッスン：小品⑧ (片手→両手)、弾き歌い⑲ (担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代)</p>

授業計画	<p>第21回 歌唱（担当：二木）歌唱指導法の理論 ピアノ実技レッスン：小品⑨（仕上げ）、弾き歌い⑳（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第22回 歌唱（担当：二木）歌唱指導法の実際 ピアノ実技レッスン：練習曲⑫（音価について・片手→両手／ホ長調、臨時記号）、弾き歌い㉑（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第23回 歌唱（担当：二木）簡易伴奏を用いた子どもの歌の伴奏 ピアノ実技レッスン：練習曲⑬（音価について・両手／短調の和音、オクターヴ記号）、弾き歌い㉒（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第24回 歌唱（担当：二木）いろいろな「冬のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：練習曲⑭（音価について・仕上げ／ニ長調、イ長調、ホ長調音階のまとめ）、弾き歌い㉓（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第25回 歌唱（担当：二木）「冬のうた」を使用した音程のトレーニング ピアノ実技レッスン：小品⑩（読譜）、弾き歌い㉔（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第26回 歌唱（担当：二木）「冬のうた」を使用したリズムのトレーニング ピアノ実技レッスン：小品⑪（片手→両手）、弾き歌い㉕（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第27回 歌唱（担当：二木）表現を考えながら「冬のうた」を歌う ピアノ実技レッスン：小品⑫（仕上げ）、弾き歌い㉖（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第28回 歌唱（担当：二木）歌唱発表会の準備 ピアノ実技レッスン：練習曲⑮（装飾音・片手→両手）、弾き歌い㉗、試験曲の練習（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第29回 歌唱（担当：二木）歌唱発表会・鑑賞 ピアノ実技レッスン：練習曲⑯（装飾音・両手）、弾き歌い㉘、試験曲の練習（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>第30回 歌唱（担当：二木）まとめ ピアノ実技レッスン：練習曲⑰（装飾音・仕上げ）、弾き歌い㉙、試験曲の練習（担当：丸尾、鷺巣、高久、藤本、漆畑、松下、田代）</p> <p>定期試験：実技試験</p>
授業の概要と目的	<p>歌唱：音楽Ⅰでの学習を確実なものとするため、より一人一人に合った指導を行う。また、より自然な発声での歌唱、簡易伴奏を用いた子どもの歌の伴奏、子どもに対する歌唱指導法も学ぶ。</p> <p>ピアノ：練習曲・弾き歌い・小品を学ぶ。 *授業の形態は音楽Ⅰと同様。</p>
テキスト	<p>音楽Ⅰで使用したもの。ピアノ小品は適宜選曲。 *「バスティン ピアノレッスン レベルⅠ」から「ピアノのアルファベット」に進むのが困難な場合は「バスティン ピアノレッスン レベルⅡ」へ進むこと。</p> <p>テキスト名（1冊目）：バスティン ピアノレッスン レベルⅡ （「ピアノのアルファベット」へ進む学生は不要） ISBN0-8497-5045-8 ジェームズ バスティン・著／日本バスティン研究会・訳 東音企画 価格（税抜）：1,000円</p> <p>テキスト（2冊目）：子どものうた村 保育の木（全員購入して下さい。） ISBN978-4-285-12062-2 小川宜子・妹尾美智子・麓 洋介／共編 DOREMI 価格（税抜）：1,800円</p> <p>テキスト（3冊目）：音楽リズム 幼児のうた楽譜集（全員購入して下さい。） ISBN978-4-487-71121-5 小林美実／編 東京書籍 価格（税抜）：1,200円</p>
参考文献	授業中、適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	授業への参加態度と実技試験により評価する。 欠席3回以上の学生は減点の対象とする。
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。
履修条件	他学科生は履修できません。音楽Ⅰを履修していること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<p>*歌唱：音程やリズムのトレーニング、歌唱の際に必要な“自然な声”を出す為のヴォイストレーニングを子どもの歌を教材に行う。 歌唱指導を念頭に置きながら“弾き歌い”をする力を身につける。</p> <p>*ピアノ：進度に応じた個人レッスン。練習曲と弾き歌いが基本教材だが、小品も適宜選曲し学ぶ。弾き歌いの目標は音楽Ⅰと同様。</p>
準備学習について	<p>*レッスンを受ける曲は必ず練習してきてください。何も練習しなかった学生は授業を受ける資格がありません。</p> <p>*楽譜を忘れないこと。</p>

講義科目名称：造形表現Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	2年	2	必修
担当教員			
八木 朋美			

テーマ	独自の分析手法を身につけ、そこからテーマ発見、造形的創造ができるようにする。またデザインの思考を身につけ、抽象的考え方から造形表現が具体的にできるようにする。		
授業計画	第1回	イントロダクション	分析の手法と創造への道
	第2回	子どものための作品収集	絵本や玩具の調査
	第3回	子どものための作品分析1	よさ発見を調査
	第4回	子どものための作品分析2	問題点発見と分析
	第5回	子どものための作品創造1	分析から絵本・玩具のテーマ創造
	第6回	子どものための作品創造2	テーマからの掘り起こし
	第7回	子どものための作品創造3	アイデアの展開
	第8回	具象形からの抽象化・作品調査1	キャラクターの調査・分析
	第9回	具象形からの抽象化・作品調査2	分析の活用
	第10回	子どものための抽象化デザイン1	動物からの抽象化デザイン
	第11回	子どものための抽象化デザイン2	デザインの発展
	第12回	抽象から子どものアイテムを考える	保育園・幼稚園のためのアイテム考案
	第13回	子どものための作品創造1	アイデアの具現化の考察
	第14回	子どものための作品創造2	作品制作
	第15回	作品発表1	周囲からの学びと自己表現力
	第16回	子どものためのデザインとは	
	第17回	過程内創造とは	有機的なフォルムの意味
	第18回	過程内創造フォルムをつくる1	実板でフォルムをつくる
	第19回	過程内創造フォルムをつくる2	フォルムの仕上げ
	第20回	過程内創造フォルムの活用1	フォルムの考察
	第21回	過程内創造フォルムの活用2	フォルムの展開
	第22回	子どものための造形基本的研究1	発見的研究方法 発見的手法実技
	第23回	子どものための造形基本的研究2	発見的研究方法 造形的手法実技
	第24回	子どものための造形基本的研究3	発見的研究方法 人間的手法実技
	第25回	子どものための造形基本的研究4	発見的研究方法 適応的手法実技
	第26回	子どものための造形基本的研究5	発見的研究方法 文化的手法実技
	第27回	テーマ発見と制作1	素材 具体的な造形物の素材研究
	第28回	テーマ発見と制作2	デザイン 具体的な造形物のデザイン研究
	第29回	テーマ発見と制作3	制作 具体的な造形物の企画と制作
	第30回	作品発表2	周囲からの学びと自己表現力 授業振り返り
			制作状況に応じ、授業計画は若干変更することがあります。
			定期試験……あらかじめ出題した課題について造形表現を行う。

授業の概要と目的	造形表現の基礎をさらに発展させ、既存の子どものための作品群（絵本や玩具etc）の収集・調査から分析手法を構築し、さらにオリジナルな作品創造の発想・造形力を身につける。合わせて、抽象的な考え方から形を導き出す手立ても学ぶ。
テキスト	使用しない。
参考文献	『造形』『紙あそび』藤田復生 著書 必要に応じてプリント資料等を配布する。
成績評価の基準・方法	到達目標がどの程度達成されているかを、授業態度・制作姿勢(30%)、提出作品(70%)、によって総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	授業中または授業終了後
履修条件	特記事項なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	保育について自ら考え創造していく発想力を身につけてほしい。前年度に学んだ基礎を活かせるよう、積み重ねを意識して学んでいきましょう。
準備学習について	課題に必要な資料を収集して持参したり、各自で準備すべき素材等が必要になる場合があります。また、課題は指定された期限内に提出できるように進めましょう。

講義科目名称：保育内容(健康Ⅰ)

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	1	必修
担当教員			
田口 喜久恵			

テーマ	乳幼児期の発育発達の特徴、及び健康的な生活習慣の確立について理解し、発達段階に即した健康形成への支援・指導できるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス；本授業の目的・内容及び授業の進め方について</p> <p>第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「健康」について</p> <p>第3回 教育要領、保育指針の年齢別健康の〈ねらい〉と〈内容〉についてグループで調査・発表</p> <p>第4回 発育及び発達の特徴、生涯発達の中での位置付け</p> <p>第5回 乳幼児の身体発達の経過と特徴</p> <p>第6回 幼児期の健康の特徴について</p> <p>第7回 乳幼児と大人の健康の違いについてグループで調査・発表</p> <p>第8回 基本的な生活習慣の確立と生涯における健康形成について</p> <p>第9回 発育発達を支える生活リズムの形成①；睡眠の確立と発育発達への影響</p> <p>第10回 発育発達を支える生活リズムの形成②；食習慣の形成と発育発達への影響</p> <p>第11回 発育発達を支える生活リズムの形成③；運動習慣の形成と発育発達への影響</p> <p>第13回 幼児の生活リズムの乱れの原因についてグループで調査・発表</p> <p>第14回 施設設備の衛生管理と安全指導について；園内での怪我・疾病の発生について</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	領域「健康」では、子どもの健康的で調和のとれた心身の発育発達を目指す。そのため乳幼児期の発育発達の特徴を理解し、幼児期に必要な、運動、食事、睡眠、排泄、衛生習慣等を学習する。また現在の子どもを取り巻く社会環境の変化により、子どもの成長の阻害要因となる事象について調査・検討し、子どもの健康形成に必要な支援・指導と安全で適切な環境整備について学ぶ。
テキスト	授業中に適宜必要な資料を配布する。
参考文献	民秋言、穂丸武臣編『保育内容 健康』北大路書房他
成績評価の基準・方法	授講態度20%、グループ学習課題提出及び発表30%、期末試験50%で評価する。
質問・相談の受付方法	授業の前後、あるいはメールにて受け付けます。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	—
準備学習について	保育内容健康は子どもの保育活動の基本となるものである。そのため、保育に関してこれまでに得た知識や情報のみならず、子どもの日常生活の問題に関心をもって授業に臨んでほしい。

講義科目名称：保育内容(人間関係Ⅰ)

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	1	必修
担当教員			
橋爪 千恵子			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を人間関係の観点から捉え、子ども理解を深めながら領域「人間関係」について具体的に理解する。 ・子どもたちに直接かかわる人として幼稚園教諭の存在にも意識を向ける。 ・発達過程にある子どもたちへの援助の在り方を習得する。
授業計画	<p>第1回 領域「人間関係」について―「幼稚園教育要領」を基に</p> <p>第2回 「領域」の基本的な考え方―「幼稚園教育要領」より</p> <p>第3回 領域「人間関係」のめざすもの</p> <p>第4回 「人間関係」にかかわる現代社会の状況①―少子化社会の影響</p> <p>第5回 「人間関係」にかかわる現代社会の状況②―家族の変化と子どもの育ち</p> <p>第6回 「人間関係」にかかわる現代社会の状況③―メディアの影響</p> <p>第7回 3歳児の人とのかかわりと指導方法</p> <p>第8回 4歳児の人とのかかわりと指導方法</p> <p>第9回 5歳児の人とのかかわりと指導方法</p> <p>第10回 気にかかる子どもへの援助</p> <p>第11回 特別な支援を必要とする子どもへの援助</p> <p>第12回 人間関係の育ちを育む環境①―幼稚園教諭同士の人間関係</p> <p>第13回 人間関係の育ちを育む環境②―幼稚園教諭と保護者との人間関係</p> <p>第14回 領域「人間関係」に関する指導案の作成と教材研究</p> <p>第15回 指導案に基づいた模擬授業と評価</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	子ども達を人とかかわりという側面でどのように育てていくのかを学ぶ。「幼稚園教育要領」の領域「人間関係」についての理解を中心におき、保育を展開する知識・技術を習得し、指導法について学ぶ。
テキスト	<p>テキスト名：『演習 保育内容 人間関係』</p> <p>ISBNコード：978-4-7679-3235-4</p> <p>出版社：建帛社</p> <p>著者：田代和美 編著</p> <p>価格（税抜）</p>
参考文献	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
成績評価の基準・方法	定期試験 80% 受講状況（授業態度、小レポート）20%
質問・相談の受付方法	授業後、及び研究室に在室時は随時。
履修条件	子ども学科の学生であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	人と人との関係は乳児期から始まります。友達や周囲のおとなと言葉を交わし人とかかわれる子どもを育てるための、保育者の役割や重要性について学んでください。
準備学習について	毎回、その日の授業の復習を行い、要点をまとめてみましょう。

講義科目名称：保育内容(環境Ⅰ)

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	1	必修
担当教員			
竹内 光子			

テーマ	<p>領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」領域である。授業の目標は以下の3点である。</p> <p>①子どもの発達と環境とのかかわりについて理解する。</p> <p>②領域「環境」のねらいと内容を深く読み取り正しく理解する。</p> <p>③物的・空間的環境の構成を具体的に考えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス／人間の生活と環境「ネイチャーループカードでつながろう」</p> <p>第2回 子どもを取り巻く環境の変化</p> <p>第3回 ねらい及び内容について</p> <p>第4回 子どもと園の環境</p> <p>第5回 子どもの発達と環境とのかかわり</p> <p>第6回 「自然とふれあい感動する」 レイチェル・カーソンの自然観</p> <p>第7回 「物事の法則性に気づく」 教材研究① 縮む！縮む！！シュリンクシート</p> <p>第8回 「季節感を味わう」 教材研究② 春夏秋冬一街の様子を調べよう</p> <p>第9回 「自然を取り入れて遊ぶ」 教材研究③ 風を利用した遊びを集めよう</p> <p>第10回 「生命の営みに触れる」 教材研究④ “つながり”をキーワードに絵本を探そう</p> <p>第11回 「身のまわりのものに愛着をもつ」教材研究⑤ 牛乳パックでフリスビーを作ろう</p> <p>第12回 「科学を体感する」 教材研究⑥ 磁石をつかった遊びを発明しよう</p> <p>第13回 「数量・図形に親しむ」 教材研究⑦ スタンピングdeアート</p> <p>第14回 「標識や文字の必要観を育む」 教材研究⑧ 標識を見つけよう</p> <p>第15回 「身近な情報や施設を活かし、生活を豊かにする」 教材研究⑨ 地域マップをつくろう</p>
授業の概要と目的	<p>保育内容(環境Ⅰ)では、教材研究を通してグループ又は個人で体験したり、調べたり、考えたりする活動をしながら、子どもの発達や領域「環境」について理解していく授業を展開する。</p>
テキスト	<p>書名：『体験する・調べる・考える 領域「環境」』</p> <p>著者名：田宮縁著</p> <p>出版社名：萌文書林</p>
参考文献	<p>授業内で紹介</p>
成績評価の基準・方法	<p>期末レポート40% 課題40% 学習態度20%</p>
質問・相談の受付方法	<p>質問相談については、授業の進行状況と合わせて応答していきたいと思いますが、受ける方法は、質問、相談用紙を作成して配布しておき、学生が随時提出できるように授業の中で5～10分の時間を設けていきたいと思っています。</p>
履修条件	<p>本授業の目的を理解していること。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<p>—</p>
準備学習について	<p>準備する事、物については、授業中に伝えますので、忘れないように準備してきてください。テキストは必ず持参すること。配布したもの、自分の記録したものはファイルに綴じて、毎回持参する事。</p>

講義科目名称：保育内容(健康Ⅱ)

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	必修
担当教員			
田口 喜久恵			

テーマ	子どもの健康阻害要因になっている事象についてグループで調査・分析し、課題解決にむけた取り組みを学習する。また指導計画を作成し、模擬授業を実施するなかで子どもへの健康支援方法・指導方法を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス；指導計画の考え方と作成手順について</p> <p>第2回 幼児期運動指針の内容と意図について</p> <p>第3回 乳幼児の運動発達と精神発達との関係について</p> <p>第4回 子どもの体力・運動能力低下に影響する社会環境の変化についてグループで調査・発表</p> <p>第5回 発達段階別に必要な運動遊びについて</p> <p>第6回 身体動作の発達と日常生活習慣の確立について</p> <p>第7回 子どものアレルギーについて</p> <p>第8回 食物アレルギーの発生と園での対応についてグループで調査・発表</p> <p>第9回 発達障害の子どもについて；発達障害児の現状</p> <p>第10回 メディア接触による発達課題とメディアコントロールについて</p> <p>第11回 領域「健康」のグループでの課題別指導計画作成①</p> <p>第12回 領域「健康」のグループでの課題別指導計画作成②</p> <p>第13回 領域「健康」のグループでの課題別模擬授業の展開と評価①</p> <p>第14回 領域「健康」のグループでの課題別模擬授業の展開と評価②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	平成24年に文部科学省から配布された「幼児期運動指針」にあるように、近年、子どもの運動習慣が減少し、身体操作能力の低下、睡眠習慣の乱れ、コミュニケーション力の低下など様々な発達課題が指摘されている。 健康Ⅱでは健康Ⅰを踏まえ、運動遊びによる身体活動は子どもの心・身の発達に関与することを学習し、様々な発達課題に対して課題解決にむかう支援方法、指導方法を学習する。
テキスト	授業中に適宜必要な資料を配布する。
参考文献	河邊貴子・柴崎正行・杉原 隆編『保育内容「健康」』ミネルバア書房他
成績評価の基準・方法	受講態度20%、グループ学習課題提出及び発表30%、期末試験50%で評価する。
質問・相談の受付方法	授業の前後、あるいはメールにて受け付けます。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	—
準備学習について	保育内容健康ⅡはⅠの授業をもとに展開する。子どもの発育発達上の様々な問題に対し支援方法等を模索する上でも、保育内容健康Ⅰの授業を十分復習して臨んでほしい。

講義科目名称：保育内容(人間関係Ⅱ)

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	必修
担当教員			
橋爪 千恵子			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保育・保育者の事例から、具体的な保育実践を学ぶ。 ・事例と関連付けて、発達心理学などの理論も理解する。
授業計画	<p>第1回 領域「人間関係」と他領域との関係―「幼稚園教育要領」を基に</p> <p>第2回 幼児期の発達と領域「人間関係」①―親・幼稚園教諭との出会いとかかわり</p> <p>第3回 幼児期の発達と領域「人間関係」②―友だちとの出会いとかかわり</p> <p>第4回 子どもと幼稚園教諭とのかかわり①―子どもとの信頼関係、子ども同士の関係をつなぐ指導法</p> <p>第5回 子どもと保育者のかかわり②―子どもの自己主張・自立に関わる指導法</p> <p>第6回 子どもと保育者のかかわり③―子どもの心の安全基地</p> <p>第7回 遊びの中の人とのかかわり①―3歳児向けの教材研究（事例研究を中心に）</p> <p>第8回 遊びの中の人とのかかわり②―4歳児向けの教材研究（事例研究を中心に）</p> <p>第9回 遊びの中の人とのかかわり③―5歳児向けの教材研究（事例研究を中心に）</p> <p>第10回 個と集団の育ち①―個と集団の関係</p> <p>第11回 個と集団の育ち②―協働性を育む指導法</p> <p>第12回 領域「人間関係」に関する指導案の作成―他者との信頼関係を築く指導案</p> <p>第13回 領域「人間関係」に関する指導案の発表と評価</p> <p>第14回 年少児の模擬授業と評価</p> <p>第15回 年中児・年長児の模擬授業と評価</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と目的	「保育内容（人間関係Ⅰ）」を踏まえたうえで、保育実践事例から子ども同士・子どもと幼稚園教諭・保育者同士のさまざまな人間関係を読みとり、子どもの人間関係のより良い発達への具体的な保育及び指導法について学習する。
テキスト	テキスト無し。必要に応じてプリントを配布します。
参考文献	『幼稚園教育要領』
成績評価の基準・方法	定期試験 80% 受講状況（授業態度、小レポート）20%
質問・相談の受付方法	授業終了時および研究室に在室中は随時。
履修条件	子ども学科の学生であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	前期に学んだ内容を土台として、保育におけるさまざまな事例からより深い人間関係について理解を深めていきましょう。
準備学習について	毎回の授業を復習し、保育の中でのさまざまな人間関係について深く考える習慣を身につけていきましょう。特に子どもとのさまざまな関わり方を考えましょう。

講義科目名称：保育内容(環境Ⅱ)

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	必修
担当教員			
竹内 光子			

テーマ	保育内容(環境Ⅰ)の発展的内容を扱う。授業の目標は、以下の2つである。 ①持続可能な社会を構築するために必要な考え方や取り組みを理解する。 ②発達と学びの連続性について理解し、指導案を作成し、模擬保育を行う。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス「子どもの感性を育むために保育者は何をすべきか？」</p> <p>第2回 幼児と楽しむ自然体験①「みつけてみよう！探してみよう！」</p> <p>第3回 幼児と楽しむ自然体験②「フィールドビンゴ」</p> <p>第4回 幼児と楽しむ自然体験③「自然を取り入れた遊びを考えよう」</p> <p>第5回 指導案の書き方</p> <p>第6回 指導案の作成</p> <p>第7回 模擬保育(1) フィールドビンゴの作成と実際</p> <p>第8回 模擬保育(2) シュリンクシートを使った遊び</p> <p>第9回 模擬保育(3) 風を利用した遊びの実際</p> <p>第10回 模擬保育(4) 身のまわりのものを使った遊びの実際</p> <p>第11回 模擬保育(5) 磁石を使った遊びの実際</p> <p>第12回 模擬保育(6) スタンプングを使った遊びの実際</p> <p>第13回 模擬保育(7) 標識を使った遊びの実際</p> <p>第14回 模擬保育(8) 園外保育の指導案作成と留意点</p> <p>第15回 まとめ「センス・オブ・ワンダーという概念の保育における意義」</p>
授業の概要と目的	グループ又は個人で体験したり、調べたり、考えたりする活動をしながら、環境に対する感性を磨き、保育者として基礎的な知識と実践力を身につけられるような授業を展開する。
テキスト	書名：『体験する・調べる・考える 領域「環境」』 著者名：田宮縁著 出版社名：萌文書林
参考文献	授業内で紹介
成績評価の基準・方法	期末レポート40% 課題40% 学習態度20%
質問・相談の受付方法	質問相談については、授業の進行状況と合わせて応答していきたいと思いますが、受ける方法は、質問、相談用紙を作成して配布しておき、学生が随時提出できるように授業の中で5～10分の時間を設けていきたいと思っています。
履修条件	本授業の目的を理解していること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	—
準備学習について	準備する事、物については、授業中に伝えますので、忘れないように準備してきてください。テキストは必ず持参すること。配布したもの、自分の記録したものはファイルに綴じて、毎回持参する事。

講義科目名称：保育内容(言葉Ⅱ)

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	1	必修
担当教員			
山下 紗織			

テーマ	<p>①人にとって「ことば」はどのようなものかを踏まえ、子どものことばの育ちについて考える。</p> <p>②様々な児童文化財とことばの関係性を考えながら、実践する力を身に着ける。</p> <p>③子どものことばの育ちを支える保育者の援助／指導方法、環境構成の実際を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生命のあることば、ことばの力</p> <p>第3回 児童文化財とことば</p> <p>第4回 絵本とことば（乳児）</p> <p>第5回 絵本とことば（幼児）</p> <p>第6回 紙芝居とことば</p> <p>第7回 わらべうた・子どものうたとことば</p> <p>第8回 ことばの育ちを支える環境構成（1）指導案の書き方</p> <p>第9回 ことばの育ちを支える環境構成（2）指導案の作成</p> <p>第10回 模擬授業（1）絵本の読み方</p> <p>第11回 模擬授業（2）紙芝居の演じ方</p> <p>第12回 模擬授業（3）ことば遊び</p> <p>第13回 模擬授業（4）振り返りとまとめ</p> <p>第14回 領域「言葉」の変遷</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と目的	<p>音とことば、ことばの持つ力、耳で聴くことばなど、講義を通して「ことば」を多面的に捉えた上で、子どもにとっての「ことば」を理解する。また、絵本や紙芝居、わらべうたについて学び、ことばの育ちを支えるものとしての児童文化財について考える。さらに、言葉Ⅰの授業を踏まえ、具体的にどのようにことばの育ちを援助／指導できるか、指導案作成及び模擬授業を通して、その方法について考える。</p>
テキスト	<p>特になし。必要に応じてプリントを配布します。</p>
参考文献	<p>講義の中で適宜紹介します。</p>
成績評価の基準・方法	<p>毎回のコメントシート、学期末のレポートにより、総合的に評価する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーを利用してください。また、毎回のコメントシートに何でも記入していただいてもかまいません。</p>
履修条件	<p>特に設けません。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>
メッセージ	<p>授業以外の時間でも、絵本や紙芝居などの児童文化財に触れる時間を持っていただけたらと思います。</p>
準備学習について	<p>発表する機会が多い授業なので、そのための事前準備を行ってください。</p>

講義科目名称：保育内容(表現Ⅱ)

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	1	必修
担当教員			
二木 秀幸			

テーマ	「あそびを通じた表現」をテーマとする。様々な表現活動の実践を通して、あそびの中から表現する術を理解し、子どもの表現活動に対する指導方法を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業内容とポイントの解説</p> <p>第2回 演劇的表現(1) ドラマ・シアターを考える</p> <p>第3回 演劇的表現(2) 劇あそびとは(理論)</p> <p>第4回 演劇的表現(3) 劇あそびの実際(実践)</p> <p>第5回 総合的な表現(1) オペレッタとは(理論)</p> <p>第6回 総合的な表現(2) オペレッタの実際(実践)</p> <p>第7回 総合的な表現(3) まとめー総合的な表現の指導法および教材研究について</p> <p>第8回 領域“表現”における指導案の作成について</p> <p>第9回 模擬授業(1) 指導案に基づきロールプレイング形式で行う</p> <p>第10回 模擬授業(2) 振り返りとまとめ</p> <p>第11回 グループワーク(1) 小グループで様々な表現を織り交ぜた創作を行う1(素材の研究)</p> <p>第12回 グループワーク(2) 小グループで様々な表現を織り交ぜた創作を行う2(発表の準備)</p> <p>第13回 グループワーク(3) 小グループで様々な表現を織り交ぜた創作を行う3(リハーサル)</p> <p>第14回 グループワーク(4) 小グループで様々な表現を織り交ぜた創作を行う4(発表会)</p> <p>第15回 保育における“表現”の指導方法の振り返りとまとめ</p>
授業の概要と目的	様々な素材(絵本・文学・楽曲・詩・歌・写真・絵)を使った創作作品(演奏・オペレッタ・音楽劇)の発表を、個人またはグループで行い、相互評価をする。また、指導案作成およびそれに基づいた模擬授業を行う。
テキスト	保育内容(表現Ⅰ)で使用したもの。また必要に応じプリント等を配布する。
参考文献	授業で紹介する。
成績評価の基準・方法	授業態度、レポート、発表・表現等による総合評価。
質問・相談の受付方法	授業終了後もしくは、オフィスアワー。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動しやすい服と靴で受講すること(必須)。 ・グループ発表において、授業時間外に準備や練習等が必要になることがあります。
準備学習について	日常生活において様々な表現活動(音楽・演劇・ダンス・ミュージカル等々)にふれる機会を持つようにしてください。

講義科目名称：保育原理

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	2	必修
担当教員			
永田 恵実子			

テーマ	保育者に必要とされる保育の意義、基本概念の理解を深めます。子どもたちが健やかに育っていくための、保育所保育指針等の基本と保育の内容や援助のあり方を学びます。さらに、日本の保育のおかれている現状と課題及び地域社会と保育者との連携を考察していきます。
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス、目的などについて 課題：保育の基本について考える</p> <p>第2回 保育の歴史 課題：西欧や日本における保育施設の誕生と発展を学ぶ</p> <p>第3回 子どもの人権 課題：子どもの最善の利益と保育のありかたを理解する</p> <p>第4回 子どもの理解について 課題：子どもをみる「まなざし」を学ぶ</p> <p>第5回 保育制度と現状(1) 課題：保育所保育指針を踏まえる ①</p> <p>第6回 保育制度と現状(2) 課題：保育所保育指針を踏まえる ②</p> <p>第7回 保育制度と現状(3) 課題：幼稚園教育要領を踏まえる ①</p> <p>第8回 保育制度と現状(4) 課題：幼保連携型認定こども園教育保育要領</p> <p>第9回 地域に開かれた保育 課題：子育てコミュニティの中核としての支援</p> <p>第10回 保育の目標 課題：個と集団への配慮</p> <p>第11回 保育の方法 課題：保育方法の基本的な考え方を知る</p> <p>第12回 保育の内容 課題：保育内容の基本的な考え方を知る</p> <p>第13回 保育の実践 課題：計画、実践、記録、評価・改善の過程</p> <p>第14回 専門機関との連携 課題：「接続期」という捉え方を学ぶ</p> <p>第15回 授業の総括・まとめ 課題：多様なニーズへの対応ができる保育者の理解</p>
授業の概要と目的	保育の意義、歴史、保育の原理と特性、保育環境、保育方法、発達と保育内容等についての基本を理解し、保育者としての専門性を学んでいきます。また、子ども・子育て新制度についても理解を深めます。
テキスト	<p>テキスト名：よくわかる保育原理 [第3版] ISBNコード：9784623066292 出版社：ミネルヴァ書房 著者：森上史朗，大豆生田啓友 価格：2,200円</p> <p>テキスト名：保育所保育指針解説書 ISBNコード： 出版社：フレーベル館 著者：厚生労働省編 価格：205円</p> <p>テキスト名：幼稚園教育要領解説書 ISBNコード： 出版社：フレーベル館 著者：文部科学省編 価格：205円</p> <p>テキスト名：幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 出版社：フレーベル館 価格：249円</p>

参考文献	新刊参考文献は授業の中で紹介します。
成績評価の 基準・方法	方法：レポート（ほぼ毎回）・自己評価（毎回）・記述試験（1回） 項目と割合：自己評価（10%）・授業態度（20%）・レポート（20%）・期末試験（50%）の 合計100%で評価します。
質問・相談の 受付方法	メール等で受けつけます。
履修条件	とくにありません。
特別学生の 履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【不可】
メッセージ	子どもは、保育者とかかわり、豊かな経験をし、様々に発達をしていきます。子どもの育つ環 境は、周囲の大人に委ねられています。この学びを大切にしてください。
準備学習に ついて	日々の新聞やニュースなどを通じ、より具体的な保育の知識をつけていきましょう。 授業終了後には次回の予習について提示します。

講義科目名称：乳児保育

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	1年	2	選択
担当教員			
内田 一女			

テーマ	保育士として必要な、乳児保育の基礎知識を理解し、実践を身につける
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 乳児保育の意義①</p> <p>第3回 乳児保育の意義②</p> <p>第4回 乳児保育の変遷</p> <p>第5回 乳児保育の重要性</p> <p>第6～9回 0歳児前半 後半の発達と保育・実践記録のG討議・全体発表</p> <p>第10～12回 1歳児の発達と保育・実践記録のG討論・全体発表</p> <p>第13～15回 2歳児の発達と保育・実践記録のG討論・全体発表</p> <p>第16回 乳児の基本的習慣の意義</p> <p>第17～20回 『食事』『睡眠』『排泄』の意義と実践.</p> <p>第21～23回 乳児の遊び ①②③</p> <p>第24～26回 乳児の環境 ①②③</p> <p>第27回 乳児の子育て支援・事例検討</p> <p>第28回 乳児保育における職員間の連携</p> <p>第29回 乳児保育に関する諸課題</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業の概要と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・『乳児保育』の意義の理解。 ・乳児の発達の理解。 ・乳児保育を実践する力を身につける。 ・乳児保育に必要な環境構成や援助の出来る力をつける。
テキスト	プリント配布
参考文献	乳児期の発達と生活・あそび 長瀬美子著
成績評価の基準・方法	レポート70点 実技30点
質問・相談の受付方法	授業終了時 随時
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】人数等検討して
メッセージ	人間が成長して行く上での根幹の部分が乳児期の育ちにあります。その次期を如何に豊かに過ごすことができるのか一緒に考えて行きましょう。
準備学習について	受講した内容について参考文献と照らし合わせてノートをまとめる。 絵本等の実技に関して事前に準備する。

講義科目名称：子どもと遊び

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	1年	1	選択
担当教員			
増田 おさみ			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに必要な遊びを理解し、実際に子どもと遊ぶ力をつける。 ・子どもの発達にあった遊びの指導ができるようにする。
授業計画	<p>第1回 子どもと遊び</p> <p>第2回 音楽遊び 年齢にあった音楽遊び わらべうたほか</p> <p>第3回 音楽遊び てあそび・うたあそび他 楽器あそび</p> <p>第4回 そとあそび・体験学習</p> <p>第5回 さんぽ 外に出る時の注意事項</p> <p>第6回 遊びとことば</p> <p>第7回 子どもと絵本</p> <p>第8回 日用品を使ってあそぶ</p> <p>第9回 造形遊び 廃材を使っての工作</p> <p>第10回 造形遊び 絵の具遊び</p> <p>第11回 四季の行事のあそび</p> <p>第12回 自由遊び おもちゃ</p> <p>第13回 造形遊び 工作</p> <p>第14回 親子遊び・子育て支援でのあそび</p> <p>第15回 グループ・ワーク</p>
授業の概要と目的	実技・実践を通して、遊びの意義や意味を理解し、実際に現場で指導できるようになるための授業を行う。
テキスト	<p>テキスト名：『子育てのキホンの話』</p> <p>ISBNコード：</p> <p>出版社：</p> <p>著者：あそび子育て研究協会 増田おさみ・大川美佐子・金沢敬子</p> <p>価格（税抜）：1,000円</p>
参考文献	<p>片山義弘・石井眞治編『乳幼児発達心理学』福村出版</p> <p>岡本夏木著『幼児期』岩波新書</p>
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席日数：授業に出席していたか ・学ぶ意欲：意欲的に学んでいたか ・理解度：理解はできたか ・実技：実践できる力がついたか <p>などを総合的に鑑み、評価する。</p>
質問・相談の受付方法	面接・メールにて質問を受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>
メッセージ	学生には、ともに、楽しく学び遊ぶことを通して、あそびの意味・意義を知ってもらえればと思います。皆様と共に学習できることを楽しみにしています。
準備学習について	授業終了後、実施した内容を各自まとめ、復習し、次回の授業につなげる。次回の持ち物を準備、確認し、実施する内容の計画を立てる。

講義科目名称：保育心理学演習

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	選択
担当教員			
上野 永子			

テーマ	保育実践のための子ども理解
授業計画	<p>第1回 発達と子どもを取り巻く環境</p> <p>第2回 発達の個人差</p> <p>第3回 身体・運動と情緒の発達</p> <p>第4回 人的環境をめぐる問題</p> <p>第5回 子ども相互の関わり方の発達</p> <p>第6回 自己意識の発達</p> <p>第7回 子ども集団の特性と社会性の発達</p> <p>第8回 子どもの生活・学びと地域社会</p> <p>第9回 遊びを通しての学びと発達</p> <p>第10回 生涯発達と生きる力の養成</p> <p>第11回 基本的生活習慣の獲得</p> <p>第12回 主体性・自主性の形成</p> <p>第13回 発達課題の達成をめぐる問題</p> <p>第14回 発達の連続性をめぐる問題</p> <p>第15回 保育上の問題と支援・援助</p>
授業の概要と目的	<p>本講義は、保育実践に必要とされる、子どもの発達やその環境の在り方に関する知識について学びます。具体的には、すでに明らかにされている子どもの心身の発達のプロセス、生活や遊びを通しての子どもの経験や学習プロセス、保育における発達援助の方法について修得することを目的とします。</p> <p>また、ほぼ毎回グループディスカッションを行い、理論と実践をつなげて考えることが出来るようにします。</p>
テキスト	<p>テキスト名：保育者養成シリーズ 保育の心理学Ⅱ</p> <p>ISBNコード：978-4-86359-039-7</p> <p>出版社：一藝社</p> <p>著者：林 邦雄・谷田貝公昭</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介します。
成績評価の基準・方法	講義中に課すレポート（30%）と学期末の筆記試験（70%）で評価します。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）にて、質問・相談に応じます。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	子育てに正解はありません。どのようなあり方が、その子どもにとってより良いのかを悩みながら実践するプロセスに、「答えらしきもの」が見え隠れします。「答えらしきもの」を一緒に考えてみましょう！
準備学習について	授業終了後に、次の予習内容を指示します。

講義科目名称：子どもの保健 I

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	2年	4	選択
担当教員			
柴田 百合子			

テーマ	子どもの成長発達過程における様々な事象や取り巻く環境等を理解する。
授業計画	<p>第1回 「子どもの保健 I」概要説明・学ぶ意義について 「子ども・健康・人間」を再考（1年時で学習した専門科目の振り返り・グループ分けを含む）</p> <p>第2回 「専門家に必要な要素とは。」第1講を踏まえてディスカッション・まとめ</p> <p>第3回 子どもの保健の目標・実践・構成（生命の保持・健康の概念 他）</p> <p>第4回 母子保健及び地域における保健 （*ご自身又はお身内の「母子健康手帳」を用意・持参して出席してください）</p> <p>第5回 母性・父性を考える（副読本及び国語辞典を持参の事）</p> <p>第6回 第五講を踏まえて ①グループワーク 発表・まとめ（テーマは当日説明予定）</p> <p>第7回 子どもの発育・発達と保健</p> <p>第8回 子どもの食事と栄養（母乳栄養含む）</p> <p>第9回 子どもの生理機能の発達と保健</p> <p>第10回 子どもの運動機能の発達と保健</p> <p>第11回 子どもの精神機能の発達と保健</p> <p>第12回 子どもの精神保健 虐待</p> <p>第13回 子どもを取り巻く環境（自然・社会・生活・住居）</p> <p>第14回 子どもの生活と養育（排泄・清潔・更衣 他）</p> <p>第15回 子どもの成長を見守る法律 半期の振り返り</p> <p>第16回 第1 2・1 3講を踏まえて ②グループワーク（テーマ 虐待・ネット社会）</p> <p>第17回 ③グループワーク発表 まとめ</p> <p>第18回 子どもの疾病と対応 健康と病気・異常への対応</p> <p>第19回 乳幼児期の病気 ウィルス・細菌感染症・食中毒・予防接種</p> <p>第20回 乳幼児期の病気 アレルギー疾患・発育と栄養障害</p> <p>第21回 乳幼児期の病気 呼吸器・循環器・血液・消化器</p> <p>第22回 乳幼児期の病気 泌尿器科・代謝・内分泌系</p> <p>第23回 乳幼児期の病気 運動器・眼・耳・鼻・悪性腫瘍 他</p> <p>第24回 乳幼児期の病気 こころ・精神・神経系</p> <p>第25回 病児と保育・障がい児と保育理</p> <p>第26回 保育現場の環境・安全・衛生管理病児と保育</p> <p>第27回 子どもの事故への対応（発達過程における事故含む）</p> <p>第28回 子どもの成長を守る法律 母子保健の現状</p> <p>第29回 母子保健行政及び母子保健施策・関連職種及び保育士の役割</p> <p>第30回 第2 9講を踏まえて④グループワーク 発表・まとめ 終講</p> <p>*講義はテキストのページに沿って進行していませんので注意してください。</p>

授業の概要と目的	<p>概要：子供が心身ともに健やかに成長発達するために、専門職として知識・技術を習得する。 * 講義内容理解確認のため、「学んだこと」を提出する回もある。講義内容をノートに記載する姿勢を基本とするため、講義終了時にノート記載内容を確認する事がある。</p> <p>①子どもの成長、発達の各段階を理解し、そこで生じる変化及び異常をキャッチし日々の保育業務に生かせるよう観察の目を養う。 ②社会人及び専門職種として、同職種、保護者、他職種との連携が図れる能力を育成する。 ③現代社会情勢を理解するとともに、自身の人間性・母性・父性を涵養する。</p>
テキスト	<p>1冊 テキスト名：新保育士養成講座 第7巻 「子どもの保健」改訂2版 ISBN：978-4-7935-1170-7 出版社：全国社会福祉協議会 著者名：新 保育士養成講座編纂委員会 委員長 網野武博 価格（税抜）：1,900円</p> <p>2冊 テキスト名：「嫁ハンをいたわってやりたい ダンナのための妊娠出産読本」 ISBN：978-4-06-272913-0 出版社：講談社+α新書 著者名：萩田和秀 価格（税抜）：760円 副読本ですが個人で入手する。後期講義でも使用予定。</p>
参考文献	<p>1・梶谷喬 佐々木正美 他著：医療保育 ぜひ知っておきたい小児科知識 改訂第4版 診断と治療社 2・鴨下重彦 柳沢正義監修：こどもの病気の地図帳 講談社 *必要と思われる文献等は、適宜講義の中で紹介する予定。</p>
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験での評価（50%） ・講義中の態度・発言グループワークへの取り組み（30%） ・4回のグループワークへの理由の無い欠席は減点します。（1回につき2.5点） ・講義の振り返り（学んだこと）の表記内容・ノートの内容（20%）
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、教室或いは講師控え室（研究室棟1階）で受け付ける予定。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の講義で座席・グループを決めるため、講義に出席しない者の履修は認めない。指定のテキストは必ず個人で用意すること。 *講義中のスマホ・携帯端末操作及び講義に無関係な私語は厳禁とする。（上記が発覚した際や、他者講義の妨げになる私語は、本人即退室、欠席扱いとする。）
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】</p>
メッセージ	<p>保育活動の基本となる子どもの理解を深めるため、子どもが誕生する妊娠から出産を含めて学び、将来のご自身の「専門職・家庭人としての姿を思い描けるようになって欲しい」と考えています。同時に社会情勢にも関心を持ち、メディア等を利用し、関連情報をキャッチし子どもを取り巻く環境にも目を向けてゆきましょう。 「The Child is father of the Man.」を念頭に！</p>
準備学習について	<p>読みやすく楽しい内容でドラマ化もされた、「嫁ハンをいたわってやりたいダンナのための妊娠出産読本」を第4回講義までに読み終えること。 予習・準備が必要な回は、事前に講義の中で説明する予定。復習は各自の自己判断で！</p>

講義科目名称：子どもの保健Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	選択
担当教員			
柴田 百合子			

テーマ	「子どもの保健Ⅰ」で習得した知識を、保育現場における実践に結びつける。
授業計画	<p>第1回 「子どもの保健Ⅱ」の概要説明 保育における保健計画と保健活動</p> <p>第2回 乳幼児の身体測定演習・発達評価 （*母子手帳を持参してください。）</p> <p>第3回 子どもの保健にかかる個別・集団対応、子どもの健康増進と保育環境 課題演習 （*母子手帳を持参してください。）</p> <p>第4回 子どもの様子観察と・体調不良時の対応・感染症の予防と対策 効果的な手洗い・グローブの着脱演習他</p> <p>第5回 子どもの生活習慣・心身の発達援助と保健活動</p> <p>第6回 バイタルサイン測定・おむつ交換・沐浴・等の演習他</p> <p>第7回 第5回の講義を踏まえての課題演習 及び ①グループワーク</p> <p>第8回 乳幼児への適切な対応 調乳実習・課題演習</p> <p>第9回 個別な対応を要する子どもへの対応 ②グループワーク</p> <p>第10回 慢性疾患・食物アレルギー・糖尿病児への対応</p> <p>第11回 医療行為が必要な子供への対応・エピペン使用について ③グループワーク</p> <p>第12回 保育における看護、事故防止及び救急蘇生法・救急処置について</p> <p>第13回 第12回の講義を踏まえて、事故時の応急処置演習 救急時の対処法</p> <p>第14回 災害への備えと危機管理 ④グループワーク</p> <p>第15回 子どもの養育環境、心とからだの健康 地域保健活動 講義総括</p>
授業の概要と目的	<p>概要：「子どもの保健Ⅰ」で習得した必要な知識を、保育現場等で実践に繋げることができるよう演習体験等から技術・知識の習得を目指す。</p> <p>① 子どもの保育に必要な援助技術を展開する際の、手順・留意点を述べることができる</p> <p>② 子どもの安全・安楽に留意し、場にあった言葉かけとともに必要な技術が展開できる。</p> <p>③ 子供の病気・事故の際の対処方法及び関係者との連携について述べるができる。</p> <p>④ 演習に必要な備品の用意、片付け、環境整備等に積極的に参加する事。</p>
テキスト	<p>1冊 テキスト名：基本保育シリーズ11 子どもの保健Ⅱ ISBN：978-4-8058-5211-8 出版社：中央法規出版 著者名：監修 公益財団法人児童育成協会 編集 松田博雄・金森三枝 価格（税抜）：2,000円</p> <p>2冊 テキスト名：新保育士養成講座 第7巻 「子どもの保健」改訂2版 *「子どもの保健Ⅰ」で使用したテキスト・副読本を「子どもの保健Ⅰ」でも使用する予定。</p>
参考文献	<p>1. 白木和夫・高田哲 編集 ナースとメディカルのための小児科学 日本小児医事出版</p> <p>2. 今津ひとみ・加藤尚美 編著 母性看護学 2産褥・新生児第二版 医師薬出版</p>

成績評価の 基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験での評価（50%） ・必要時、講義中、講義終了前・後に演習に関する小テストを実施する（20%） ・演習への取り組み、グループワークへの出席及び参加姿勢（30%） ・4回設定のグループワークへの理由の無い欠席は減点する。（1回につき2.5点）
質問・相談の 受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、教室或いは講師控え室（研究室棟1階）で受け付ける予定。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの保健Ⅰ」が履修済みであること。 ・第1回目の講義で座席・グループを決めるため、第1回講義に出席しない者の履修は認めない。 ・指定のテキストは各自必ず用意すること。 <p>*講義中のスマホ・携帯端末操作は及び講義に無関係な私語は厳禁。 （スマホ等の端末操作が発覚した際や他者に迷惑な私語は、本人は即退室、欠席扱とする。）</p>
特別学生の 履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<p>保育の専門職として「子どもの保健Ⅰ」で習得した知識を再確認し、必要な技術等体験学習（演習）を通じて習得してゆきます。技術習得については、演習に積極的に参加し、保育現場での保健活動を疑似体験します。実際とは大きくかけ離れる場面がほとんどですが、個人で、またグループで手順等を確認しながら体験してゆきましょう。</p> <p>「The leopard cannot change his spots.」</p>
準備学習に ついて	<p>実技演習が予定されている回の講義に際しては、体験する行為・技術に関してポイント等をノートに整理して出席する等の予習が必要となる。</p> <p>準備学習が必要の際は、講義の中で適宜指示する予定。</p>

講義科目名称：子どもの食と栄養

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	2年	2	選択
担当教員			
田崎 裕美			

テーマ	子どもの心身の健全な発育・発達にとって、重要である食と栄養に関する知識・技術を習得する
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：子どもの健康と食生活の意義</p> <p>第2回 子どもの食生活の現状と課題 演習1：食生活のチェック</p> <p>第3回 保育所等における「食」に関する指針と食育</p> <p>第4回 栄養の基本的概念と栄養素の働き①</p> <p>第5回 栄養の基本的概念と栄養素の働き②</p> <p>第6回 日本人の食事摂取基準</p> <p>第7回 食品の基礎知識</p> <p>第8回 健全な食生活のための献立作成</p> <p>第9回 子どもの発育・発達と食生活</p> <p>第10回 子どもの栄養と生理</p> <p>第11回 子どもの発育・発達と食生活 1) 授乳期の意義と食生活</p> <p>第12回 子どもの発育・発達と食生活 2) 母乳育児の支援 演習2：調乳法・授乳法</p> <p>第13回 子どもの発育・発達と食生活 3) 離乳期の意義と食生活</p> <p>第14回 子どもの発育・発達と食生活 4) 離乳食の献立と調理 演習3：離乳食</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 授乳期・離乳期の意義と食生活</p> <p>第17回 幼児期の心身の健康と食生活</p> <p>第18回 幼児期の心身の健康と食生活 演習1：幼児食と食事バランスガイド</p> <p>第19回 幼児期の心身の健康と食生活 演習2：幼児期の間食</p> <p>第20回 幼児期の心身の健康と食生活 演習3：幼児期のお弁当</p> <p>第21回 学童期・思春期の心身の発達と食生活</p> <p>第22回 妊娠期の心身の発達と食生活</p> <p>第23回 食育の基本と内容</p> <p>第24回 食育の基本と内容 演習4：食育指導計画の作成及び家庭への周知</p> <p>第25回 食育の基本と内容 演習5：食育指導</p> <p>第26回 家庭における食事と栄養</p> <p>第27回 児童福祉施設における食事と栄養</p> <p>第28回 特別な配慮を要する子どもへの食と栄養①</p> <p>第29回 特別な配慮を要する子どもへの食と栄養②</p> <p>第30回 子どもの栄養と食 総まとめ</p>

授業の概要と目的	乳幼児の心身の健全な発達にとって、重要となる食と栄養に関する知識・技術を習得することを目指す。 妊娠期から始まり、乳児期・幼児期・学童期までの食生活と栄養の在り方を考え、正しい実践を行うことは、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発育を支え健康な体と習慣をつくるうえで、重要である。本授業では、保育者にとって、子どもの健全な成長を支えるうえで必要な子どもの食と栄養に関する正しい知識と技術を身につけ、指導に必要な技能を習得することを目的とする。
テキスト	テキスト名：『子どもの食と栄養演習』 ISBNコード： 出版社：建帛社 著者：小川雄二 編著 価格（税抜）：
参考文献	授業内で随時、紹介します。
成績評価の基準・方法	授業態度・演習レポート（30%）と定期試験（70%）で総合的に評価します。
質問・相談の受付方法	メール（tazaki_11@suw.ac.jp）や口頭、リアクションペーパーでの質問・相談には、随時対応します。授業終了後やオフィスアワーは、介護福祉棟305研究室で対応します。
履修条件	子ども学部 子ども学科の学生のみ。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	食育は知育、徳育、体育の基本であり、心身の健全な発達とともに、人格形成にも影響を及ぼします。食育の重要性を日頃の食生活から認識し、積極的な学習を心がけてください。
準備学習について	授業内容を復習し、演習課題について積極的に取り組んでください。

講義科目名称：保育所実習指導 I

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	1	選択
担当教員			
山田美津子、橘田重男、岡村由紀子、山下紗織			

テーマ	保育所実習に向けての準備および実習後の反省と自己評価に基づき、新たな自己課題を明確にする。
授業計画	<p>第1回 保育所実習の意義・目的と内容を理解する</p> <p>第2回 保育所の役割と保育士の仕事の理解</p> <p>第3回 子どもの理解</p> <p>第4回 障害児の理解</p> <p>第5回 保育所の理解（外部講師）</p> <p>第6回 1日見学実習オリエンテーション</p> <p>第7回 1日見学実習</p> <p>第8回 1日見学実習報告会</p> <p>第9回 指導計画の理解と立案</p> <p>第10回 指導計画に基づく保育実践と評価</p> <p>第11回 実技指導</p> <p>第12回 実習記録の意義と日誌の書き方</p> <p>第13回 本実習のためのオリエンテーション</p> <p>第14回 事後指導①（自己評価と個別指導）</p> <p>第15回 事後指導②（実習報告会）</p>
授業の概要と目的	保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。また実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習後は実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
テキスト	『保育実習の手引き』静岡福祉大学 保育実習委員会編
参考文献	随時、紹介する。
成績評価の基準・方法	出席状況および受講態度とレポート等の提出状況とその内容により、総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	随時
履修条件	実習内規による科目の単位を取得していること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	実習に関する大事な授業ですので、遅刻・欠席がないように留意してください。
準備学習について	授業で課された課題（授業後のレポートや一日見学実習記録）を必ず期日までに提出するようになしてください。

講義科目名称：保育実習 I

開講期間	配当年	単位数	必選
保:後/施:前	保:2/施:3	4	選択
担当教員			
山田美津子、橘田重男、岡村由紀子、山下紗織			

テーマ	児童福祉施設、保育士および子どもについて理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の生活の流れを理解する（保育所） 2. 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する（保育所） 3. 保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークについて理解する（保育所） 4. 保育士としての倫理や、安全及び疾病予防への配慮について理解する（保育所） 5. 保育計画・指導計画を理解し、生活や遊びなどの一部分を担当して保育技術を学ぶ（保育所） 6. 児童福祉施設（障害者支援施設も含む）の実際と、養護の一日の流れを理解する（施設） 7. 観察やかかわりを通して、子ども（利用者）の実態とニーズを理解する（施設） 8. 施設保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークについて理解する（施設） 9. 施設保育士としての倫理や、安全及び疾病予防への配慮について理解する（施設） 10. 支援計画を理解し、生活や支援などの一部分を担当して養護技術を学ぶ（施設）
授業の概要と目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
テキスト	『保育実習の手引き』（静岡福祉大学で作成したテキストなので購入の必要はありません。授業内で配布します。）
参考文献	『保育所保育指針』
成績評価の基準・方法	学内の実習指導の学習状況、実習先の評価、実習日誌の評価、個別指導担当教員による評価から、総合的に評価する。
質問・相談の受付方法	随時、実習担当教員が受け付ける。
履修条件	子ども学科の学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	実際に子どもとかわることを通して、学びを深めましょう。
準備学習について	実習指導の授業に出席し、準備をしてから実習に臨んでください。また、実習日誌他、課された課題は必ず指定された期日までに実習先及び大学まで提出すること。

講義科目名称：社会福祉

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	1年	2	選択
担当教員			
山田 美津子			

テーマ	福祉専門職（保育士）として必要な知識を修得する。
授業計画	<p>第1回 社会福祉の理念と概念</p> <p>第2回 社会福祉の歴史（明治～第二次大戦）</p> <p>第3回 社会福祉の歴史（第二次大戦後～昭和の終わりまで）</p> <p>第4回 社会福祉の歴史（平成の始め）</p> <p>第5回 社会福祉の歴史（社会福祉構造改革を中心に）</p> <p>第6回 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み（権利擁護、苦情解決）</p> <p>第7回 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み（情報提供、第三者評価）</p> <p>第8回 社会福祉の制度と法体系</p> <p>第9回 社会福祉行財政と実施機関</p> <p>第10回 社会福祉施設等</p> <p>第11回 社会福祉の専門職・実施者</p> <p>第12回 相談援助の方法と技術</p> <p>第13回 少子高齢社会への対応</p> <p>第14回 諸外国の動向</p> <p>第15回 社会福祉の動向と課題</p>
授業の概要と目的	<p>現代社会において保育士は家庭、地域社会、各種専門機関との連携が求められ、より広い視野をもち、さまざまな場で専門性の発揮が期待されている。</p> <p>この授業では、1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、2. 社会福祉と児童家庭福祉との関連性、3. 社会福祉の制度や実施体系等、4. 相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、5. 社会福祉の動向と課題について学習する。</p> <p>学習を通して福祉専門職として必要な知識を修得することを目的とする。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『社会福祉を学ぶ』</p> <p>ISBNコード：</p> <p>出版社：みらい</p> <p>著者：山田美津子、稲葉光彦編著</p> <p>価格（税抜）：2,000円</p>
参考文献	随時紹介する。
成績評価の基準・方法	定期試験80%、授業態度10%、レポート10%
質問・相談の受付方法	授業終了後または研究室に在室の時。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	日頃から社会福祉に関する身近な出来事やニュースに関心を持ってほしい。
準備学習について	授業で課された課題（授業後のレポート等）を必ず期日までに提出するようにしてください。

講義科目名称：子ども家庭福祉

開講期間	配当年	単位数	必選
前期	2年	2	必修
担当教員			
山田 美津子			

テーマ	子ども家庭福祉の意義、制度、現状と今後の動向、展望について理解する。
授業計画	<p>第1回 児童福祉の理念、児童の人権擁護</p> <p>第2回 児童福祉の歴史（第2次世界大戦まで）</p> <p>第3回 児童福祉の歴史（第2次世界大戦以降）</p> <p>第4回 児童家庭福祉の制度と法体系</p> <p>第5回 児童家庭福祉の行財政と実施機関</p> <p>第6回 児童福祉施設</p> <p>第7回 多様な保育ニーズへの対応</p> <p>第8回 少子化と子育て支援</p> <p>第9回 児童虐待の現状と防止対策</p> <p>第10回 ドメスティックバイオレンス</p> <p>第11回 社会的養護</p> <p>第12回 障がいのある児童の対応</p> <p>第13回 少年非行等への対応</p> <p>第14回 次世代育成支援</p> <p>第15回 諸外国の動向と日本の児童家庭福祉の展望</p>
授業の概要と目的	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について学び、「子どもの最善の利益」を保障する意義と責任について学ぶ。また、子ども家庭福祉に関する制度と実施体系について学ぶ。そして、子育て支援サービス、児童虐待の問題や非行への対応、障がい児への対応など子ども家庭福祉の現状を学び、子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
テキスト	<p>テキスト名：『児童家庭福祉』</p> <p>ISBN：</p> <p>出版社：みらい</p> <p>著者名：神戸憲次、喜多一憲 編</p> <p>価格（税抜）：2,000円</p>
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法	授業態度10%、レポート10%、期末試験80%で評価する。
質問・相談の受付方法	授業終了後またはオフィスアワー。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	意欲的、積極的に学習をしてください。
準備学習について	授業で課された課題（授業後のレポート等）を必ず期日までに提出するようにしてください。

講義科目名称：家庭支援論

開講期間	配当年	単位数	必選
後期	2年	2	選択
担当教員			
永田 恵実子			

テーマ	保育相談支援に必要な方法・支援技術・価値倫理
授業計画	<p>第1回 家庭の意義と機能</p> <p>第2回 家庭支援の必要性</p> <p>第3回 保育士等が行う家庭支援の原理</p> <p>第4回 家庭生活を取り巻く社会状況の変化</p> <p>第5回 地域社会の変容と家庭支援</p> <p>第6回 現代の家庭における人間関係</p> <p>第7回 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス</p> <p>第8回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</p> <p>第9回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</p> <p>第10回 多様な子育て支援サービスの概要</p> <p>第11回 保育所入所児童の家庭への支援</p> <p>第12回 地域の子育て家庭への支援</p> <p>第13回 要保護児童および家庭に対する支援</p> <p>第14回 子育て支援における関係機関との連携</p> <p>第15回 子育て支援サービスの課題</p>
授業の概要と目的	<p>保育所保育指針において、保育士の専門性を生かした保護者支援の必要性がうたわれている。保育士は子どもを保育するとともに、保護者に対する支援も重要である。保育士は家庭への支援のための専門性を身に付け、児童福祉施設などでも幅広く展開できるようにしていくことが大切である。講義(演習)においては、保育所および児童福祉施設などにおける保育相談支援の意義、基本、実際を学ぶ。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『家庭支援論』</p> <p>ISBNコード：</p> <p>出版社：中央法規 2016年 3月</p> <p>著者：新保幸男・小林理 編著</p> <p>価格(税抜)：</p>
参考文献	<p>保育所保育指針、保育関連科目で使用しているテキストなど。また必要に応じて紹介する。</p>
成績評価の基準・方法	<p>演習への意欲、参加態度、グループワークの技法、課題レポートなどを総合して評価する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義時随時受け付ける。</p>
履修条件	<p>なし</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<p>学生には講義(演習)における主体的な参加を期待します。</p>
準備学習について	<p>授業の事前事後にテキストを読んでおくこと。</p>

講義科目名称：障がい児保育

開講期間	配当年	単位数	必選
通年	2年	2	必修
担当教員			
岡村 由紀子			

テーマ	障害児を含む保育をどのように創りだしていくのか
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の進め方 教育・保育の目的
	第2回 子どもをどうとらえるのか？ 子どもの権利条約を中心に
	第3回 障害児保育の定義・障害とは何か？
	第4回 障害児保育がめざすもの
	第5回 障害児保育の仕組み・障害児保育の現状
	第6回 障害時保育の歴史と制度
	第7回 保育の場で会う障害・・・広汎性発達障害
	第8回 保育の場で出会う障害・・・注意欠陥・多動性障害
	第9回 保育の場で出会う障害・・・知的障害
	第10回 保育の場で出会う障害・・・肢体不自由
	第11回 年齢別にみる自我の発達について
	第12回 あそびとは何か？年齢別にみる遊びの種類と発達について
	第13回 あそび場面に見る保育指導の実際① 共感・環境・ごっこ遊び・見え難い要求
	第14回 あそび場面に見る保育指導の実際② 突然の危険な行為・個と集団・保育者の言葉
	第15回 親の悩みから見る保育指導について
	第16回 障害児保育の実際② 年齢別人間関係(集団)の発達について
	第17回 障害を持つ子どもの仲間関係の実際と指導
	第18回 障害時保育の実際③ 年齢別知的発達について
	第19回 知的発達を促す保育の実際と指導
	第20回 障害児保育の実際④ 自己統制・自己統制・自己抑制について
	第21回 行動調整を促す保育の実際と指導
	第22回 障害児保育の実際⑤ 年齢別運動発達について
	第23回 運動発達を促す保育の実際と指導
	第24回 障害児保育の実際 記憶について
	第25回 当事者の心を知る① 成人
	第26回 当事者の心を知る② 子ども
	第27回 親支援を考える…親の心を知る
	第28回 カンファレンスの目的とその方法について
	第29回 専門機関での支援とネットワークについて
	第30回 まとめ 「障害児保育を学び考える障害児保育の理念と保育創造について」

<p>授業の概要と目的</p>	<p>近年、障害をもつ子どもと子どもを取り巻く状況が大きく変化している。障害の重度・重複化と共に多様化も指摘されている。さらには「気になる(発達障害を含む)」子どものように必ずしも障害と認定されていない特別なニーズをもつ子どもに対して早期発見・早期支援の重要性も認識されるようになってきている。一方、最近の社会・経済状況を反映して障害をもつ子どもの家族を取り巻く状況や障害児・障害者の生活を支える制度も大きく変わりつつある。こうした現状の中で、歴史や制度、障害の種類・程度による子ども理解と対応にとどまらず、子どもたち1人1人の保育ニーズを把握し「1人の人間として生きていく」には、どんな支援が乳幼児期に必要なのかが問われている。</p> <p>保育とは言うまでも無く子どもと保育士が時間と空間を共有し創り出すものである。そして保育場面の中でみせる子どもの育ちに立ち会える生きがいのある仕事である。</p> <p>授業では、「障害とは何か」「子どもの発達特性の理解と対応」に留まらず「障害児を含む保育をどのように創りだしていくのか」と言う保育創造の視点を重要視し、専門性の高い保育士としての知識や理論を学ぶものとする。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：「障害児保育」 ISBNコード：978-4-7679-5029-7 出版社：建ぱく社 著者：本郷一夫 編著 価格（税抜）：1,900円</p> <p>テキスト名：「ちょっと気になる子の保育」 ISBNコード：4-939-117-14-6 出版社：ひだまり出版 著者：岡村由紀子 価格（税抜）：1,429円</p> <p>テキスト名：「気になること言わない保育」 ISBNコード：978-4-89464-195-2 出版社：ひとなる書房 著者：赤木和重・岡村由紀子 編著 価格（税抜）：1,800円</p>
<p>参考文献</p>	<p>加藤繁美「自分づくりと保育の構造」ひとなる書房 ルソー「エミール上中下」岩波書店（岩波文庫）1962 太田堯「教育とは何か」岩波書店（岩波新書）1990</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>	<p>毎回の授業カード、課題レポート2回より総合的に評価する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業カードもしくは授業後直接。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特になし</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>障害児保育は、教育の原点と考える。授業を通して「障害児保育」の理解とともに「教育とは何か」「人間とは何か」「保育とは何か」についても深めていく事を願っている。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>毎授業後には、レポートを必ず提出すること。授業中に具体的に予習・復習内容を提示する。</p>